

Magic xpa マイグレーション

C/S 編

<目次>

1. uniPaaS までの移行
2. uniPaaS から xpa への移行
3. アップグレードマネージャ
4. F8 チェック
5. キーボード割付
6. Magic.ini
7. その他

1. uniPaaS までの移行

uniPaaS V1Plus までの移行は従来通りです。

V9Plus までは、リポジトリ出力→入力によって移行します。

V9Plus からは「V9Plus アプリケーション変換ユーティリティ」を使います。

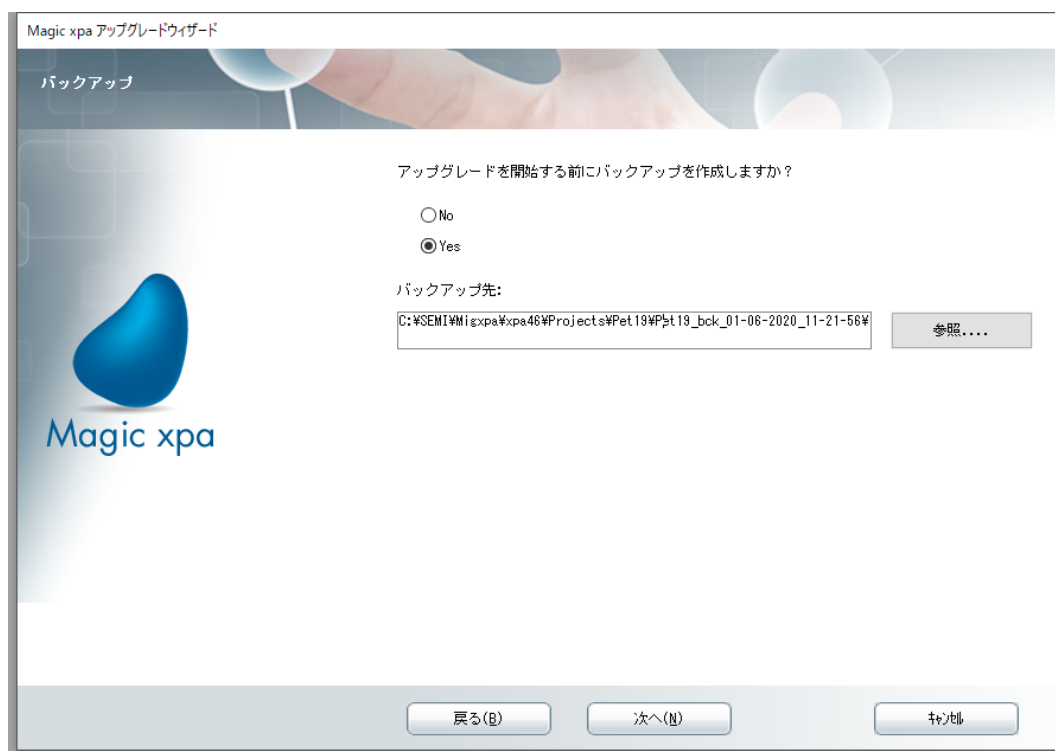
ユーティリティは、uniPaaS V1Plus に付属している物でも、xpa3.1 までに付属している物でも構いません。Xpa3.2 からは GUI の変換ユーティリティは削除されコマンドラインユーティリティ (v9converter.exe) のみとなっておりますが、こちらを使用しても構いません。

2. uniPaaS から xpa への移行

uniPaaS のプロジェクトファイル (.edp) を xpa4.6 の開発版でオープンすると、自動的にウィザードが起動します。



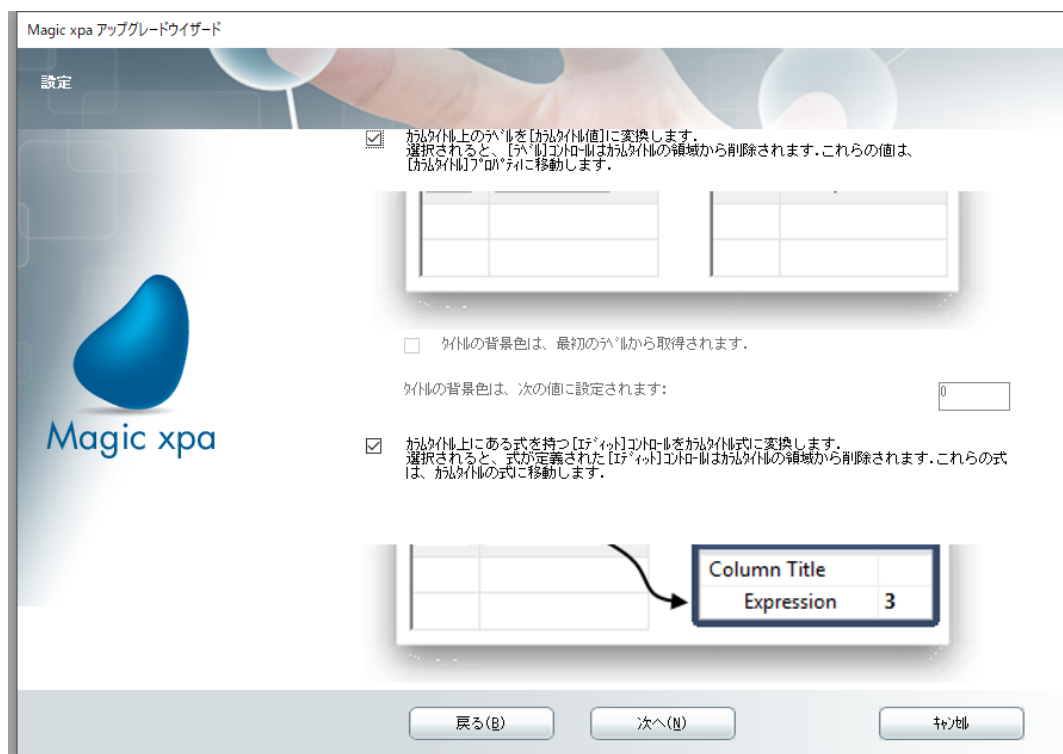
事前にバックアップを取っておけば、ここは「No」でも問題ありません。



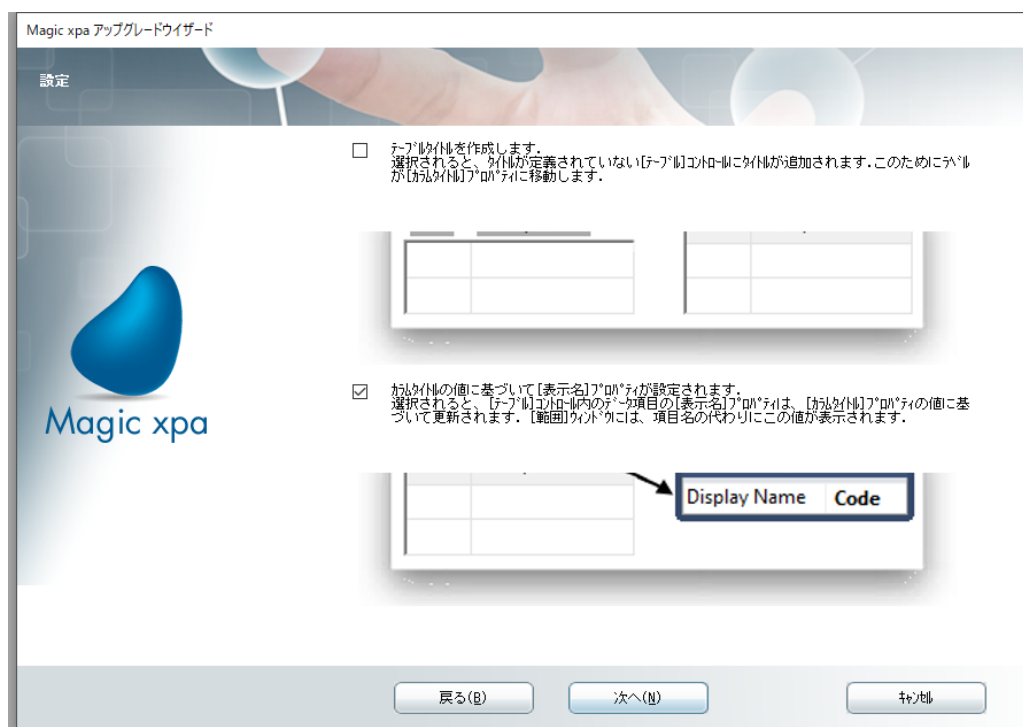
続いて、コンバーターの設定となります。

テーブルコントロールのカラムを自動変換する設定です。

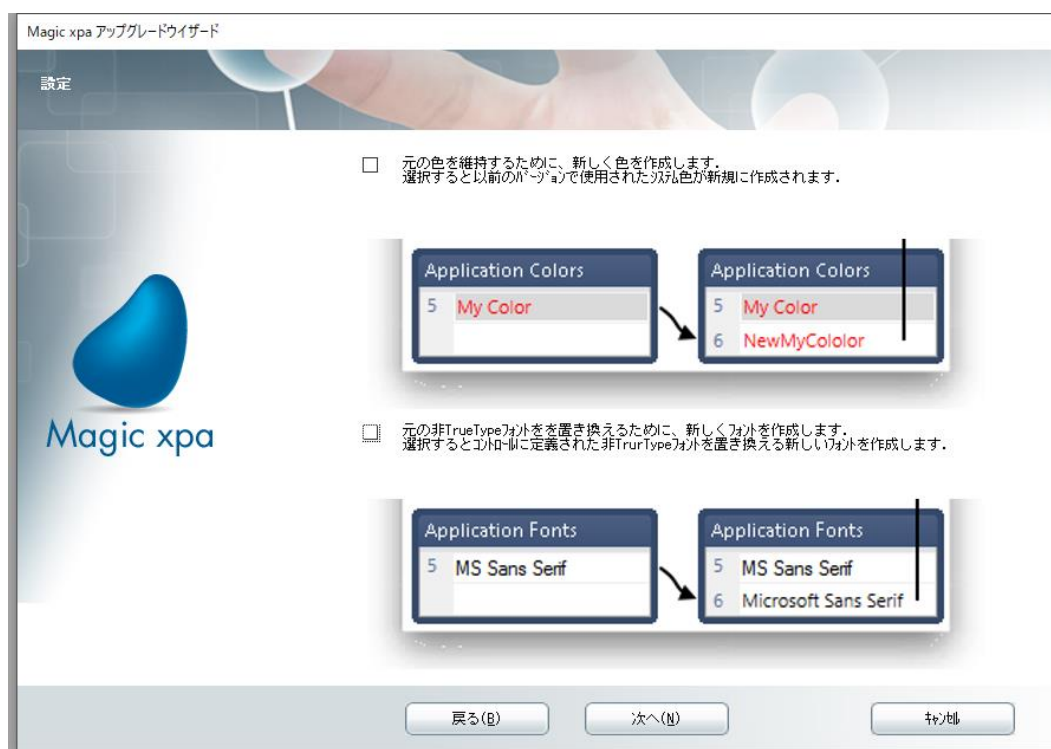
1 カラムに複数のテキストを配置している等していない限り、チェックしておくの良いでしょう。



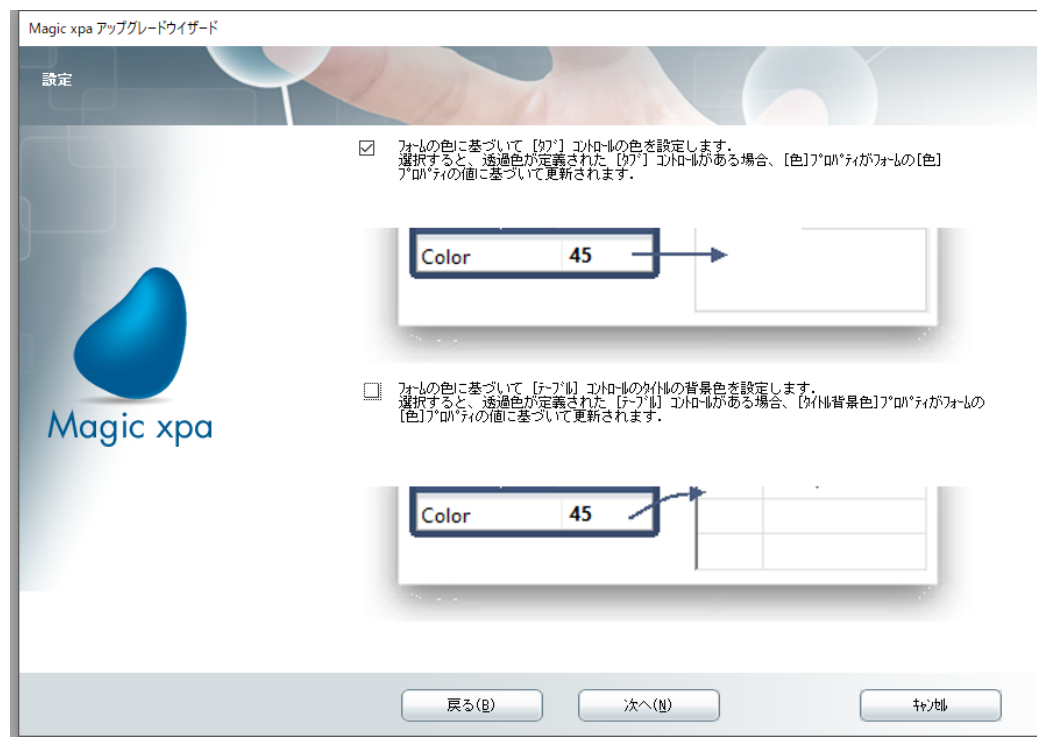
引き続きテーブルコントロールのタイトルに関する設定です。



色とフォントの関係することですが、チェックを外すことが多いようです。



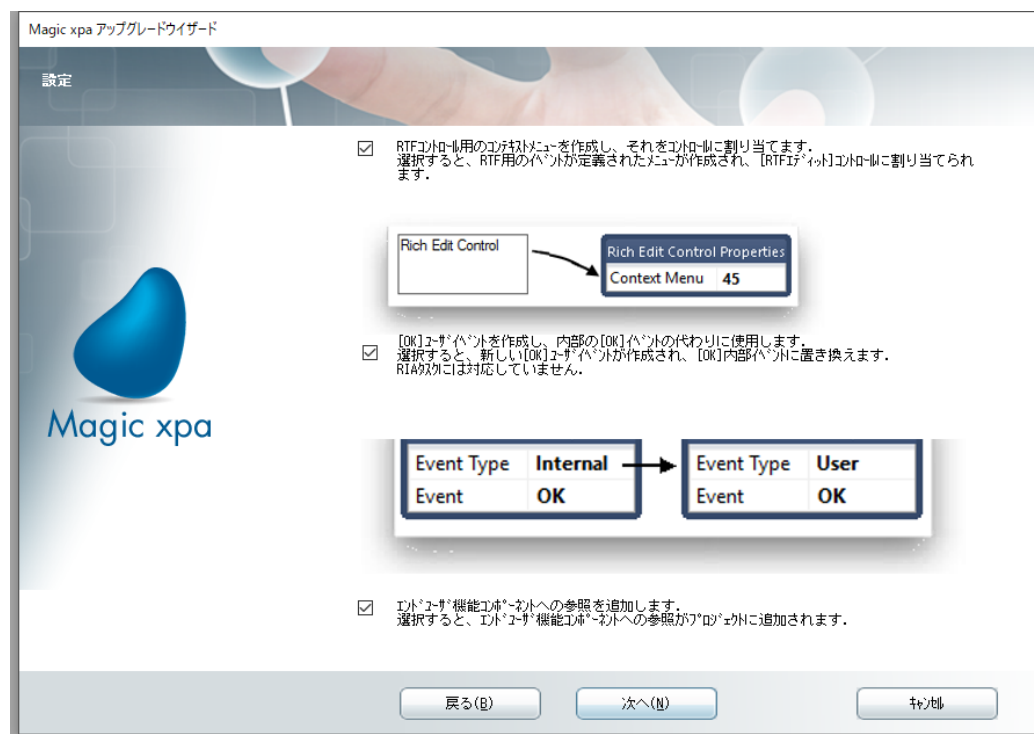
テーブル関連は外した方が良さそうです。



※透過色については、かなり変更されています。

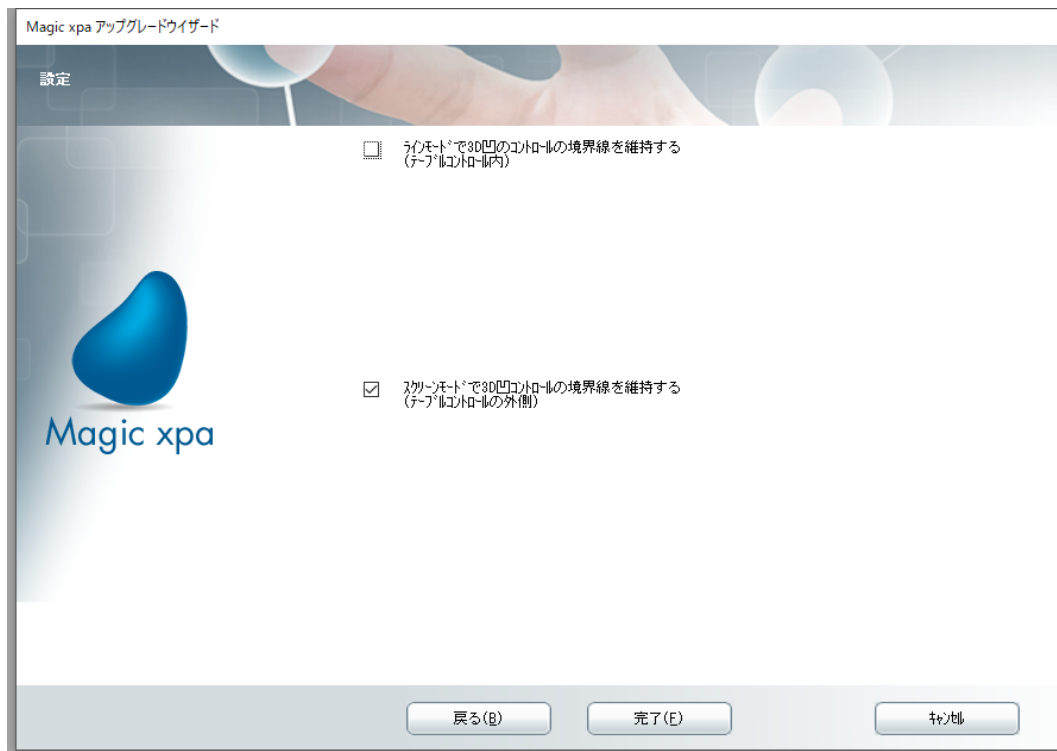
そのため、移行後にクロスリファレンスや Optimizer を使って確認しましょう。

このページは全てチェックを付けておくと良さそうです。



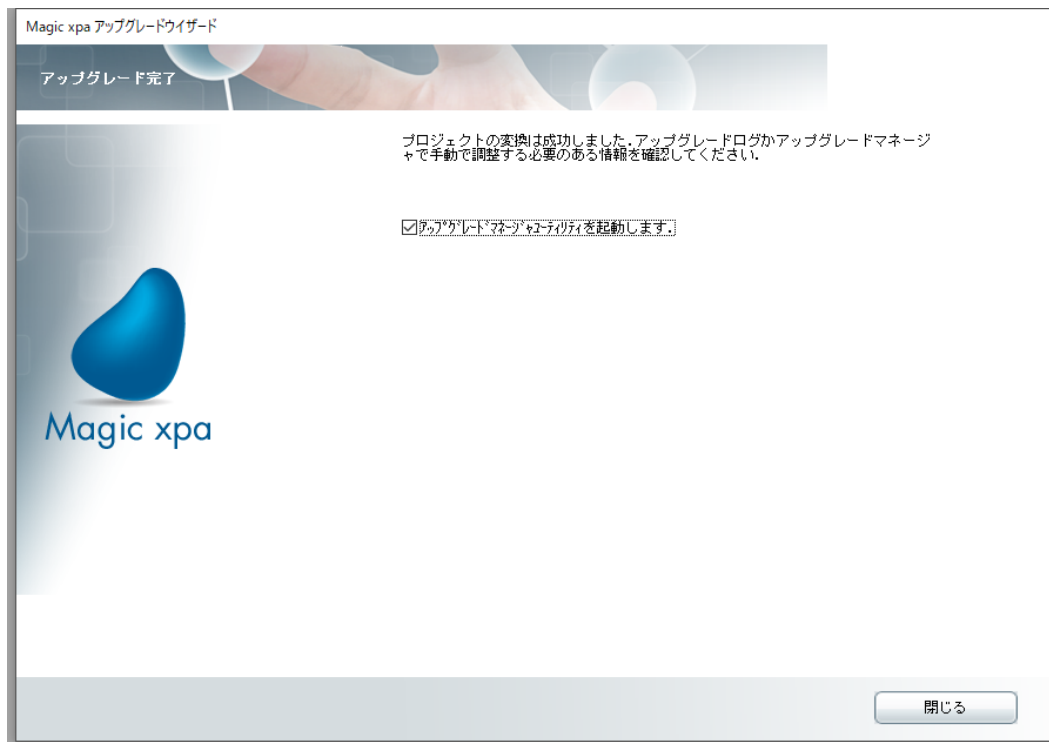
3D 立体スタイルに関する設定です。

スクリーンモードに関してはチェックしておくとい良いでしょう。



完了ボタンを押して、暫く待つと自動変換が終了します。

プログラム数やハードウェアの性能によって変換に要する時間は異なります。



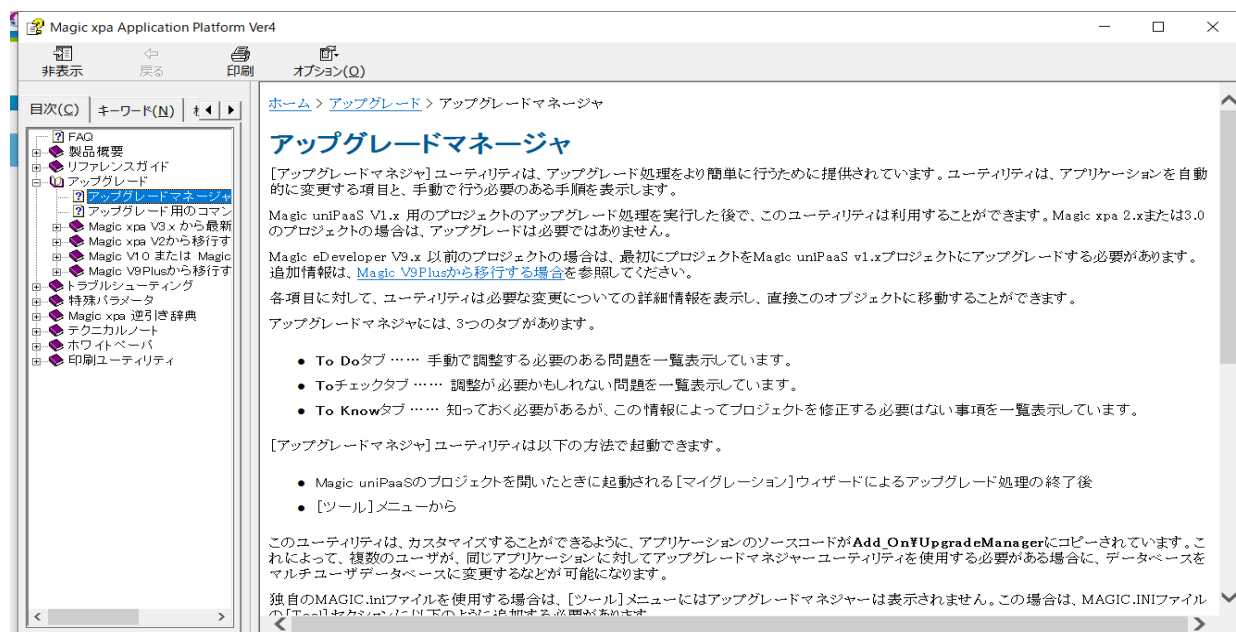
3. アップグレードマネージャ



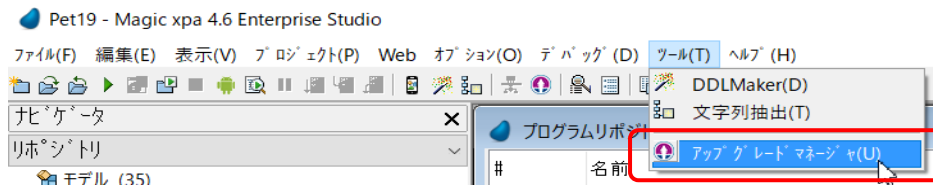
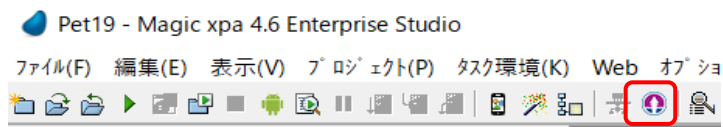
アップグレードマネージャは、変換によって発生した非互換部分を指摘してくれます。
優先度によって、次の3段階に分けて表示しています。

- ・To Do : 手動で調整する必要のある項目を一覧表示しています。
- ・To Check : 調整が必要と思われる項目を一覧表示しています。
- ・To Know : お知らせしておいた方が良いと思われる項目を一覧表示しています。

<アップグレードマネージャのヘルプ>



アップグレードマネージャは、再起動が可能です。ツールバーのアイコンをクリックするか、ツールメニューのアップグレードマネージャを選択することで起動します。



結果はローカルデータベースに書き込まれています。

アップグレードマネージャから該当のプログラムにジャンプすることができます。

📍 Location

☐ ▼ プログラム/タスク 1

☐ Main program form



このボタンを押します。

対応が完了したものにはチェックを付けて状況を把握できるようにしておきます。

📍 Location

☒ ▼ プログラム/タスク 1

☒ Main program form

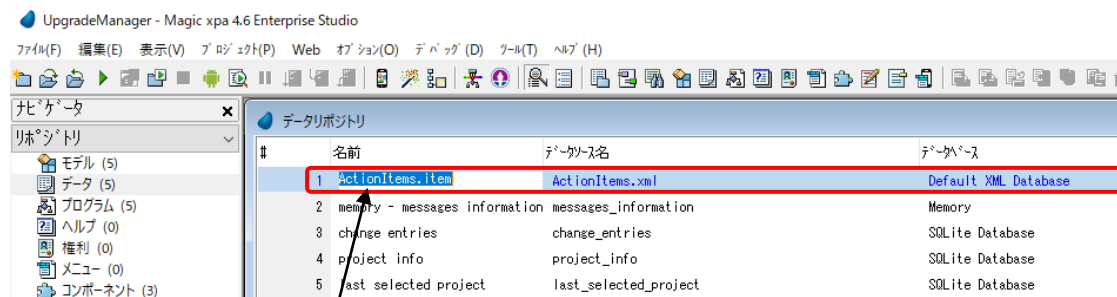


※アップグレードマネージャは、Magic xpa のプログラムです。

従って、カスタマイズすることも可能です。

標準インストールの場合、以下のフォルダにあります。

C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 4.6\Add_On\UpgradeManager



この xml ファイルが警告リストです。

次ページからは、対応を考察しています。

※全ての変更（警告）について記載しているわけではありません。

(1) MDI フォームが作成されました (To Do)

Magic xpa では、実行時の外枠はメインプログラムのフォームです。uniPaaS までの外枠は実行エンジンでした。

実行時のタイトルや、ツールバーの制御はメインプログラムのフォームで行います。代表的な変更例を記載しておきます。

- ・ フォーム名

実行時のタイトルバーに表示されます。初期値は「メインプログラム」です。アプリケーション名に変更します。

- ・ プルダウンメニュー

必要であれば、ズームしてメニューリポジトリから選択します。

- ・ 開始モード

初期値では「最大」になっているため、実行すると自動的に最大化されます。「デフォルト」にして、幅や高さを調整することも有効です。

- ・ 色

画面の背景色が、初期値（1 番の色）では白になることが予想されます。従来通りの濃いグレーにする場合、ズームして適切な色を選択します。

- ・ 幅、高さ

実行されるプログラムのフォームサイズより、やや大きめに設定しておきます。

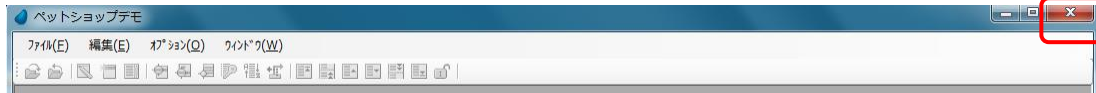
区分(C)	全体(A)		
□ デフォルト			
デフォルト		[デフォルト]	
□ 詳細			
ウィンドウタイプ	R=MDIフレーム	0	
ウィンドウメニューに表示	No	0	
寸法単位	D=タイポグラフィ(文字)		
垂直精度	8		
水平精度	4		
グリッド表示	No		
グリッド間隔(X)	1.000		
グリッド間隔(Y)	1.000		
フォーム名	ペットショップデモ	0	
フォーム状態の維持	No		
フォーム状態の維持バージョン	0		
コンテキストメニュー	0	0	
ドロップ許可	No	0	
□ SDI			
プロパティメニュー	1	0	
メニュー表示	Yes	0	
ツールバー表示	Yes	0	
ステータスバー表示	Yes	0	
開始モード	D=デフォルト	0	
□ 入力			
タイトルバー	Yes	0	
システムメニュー	Yes		
最小化ボタン	Yes		
最大化ボタン	Yes		
パレット最適化	No		
デフォルトボタン		0	
□ 表示			
背景		0	
背景スタイル	T=タイル		
フォント	1	0	
色	49	0	
ゲージ背景スタイル	N=なし		
グラデーション色	1	0	
フル画面	0		
境界スタイル	H=太線		
スクロール許可	No		
□ パリテーション			
開始時の位置	C=中央		
位置	{0,0,0,0}		
X	0.000	0	
Y	0.000	0	
幅	100.000	0	
高さ	80.000	0	
最小幅	0.000	0	
最小高さ	0.000	0	

※フォームに関する重要事項

- ・ 外枠の閉じるボタンは無効化できません

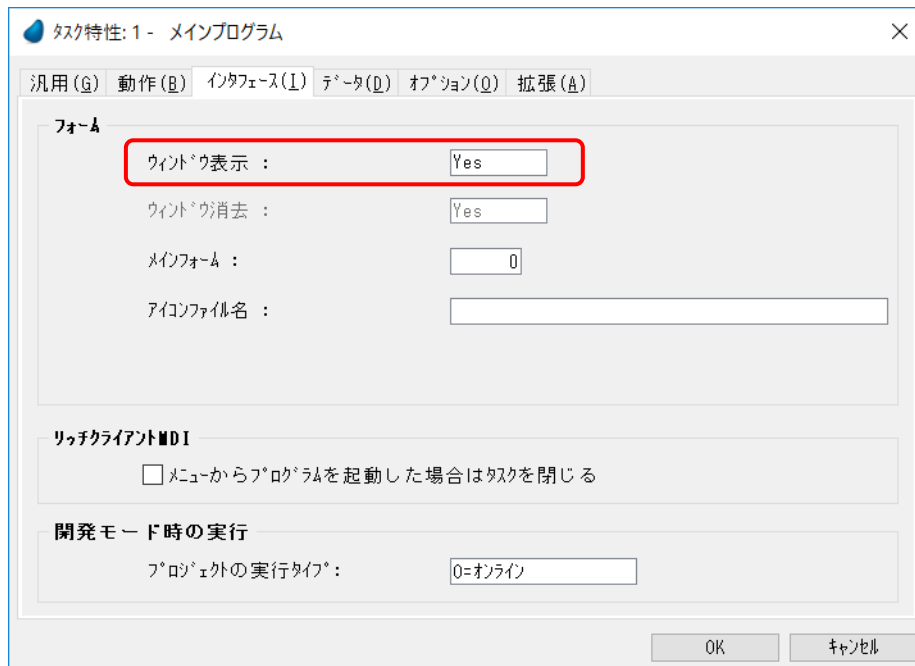
uniPaaS までは、外部 DLL による制御が可能でしたが、xpa では使用できません。

終了(X)イベントを取得してフラグ変数による制御を作成する等の工夫が必要となります。



- ・ 外枠を表示させない方法

メインプログラムのタスク特性で、ウィンドウ表示を「No」にすると外枠は表示されません。



- ・ フォーム状態の維持

<ヘルプの説明>

フォームが状態を維持するかどうかを指定します。

Yes …… フォーム毎に状態を保存します。

No …… フォームの状態は保存されません。

FormStateClear 関数のトピックを参照してください。

関連トピック：エンドユーザがカスタマイズしたフォーム状態を保持するには

注意：

この機能は、開発エンジンで実行している場合は無効です。

つまり、[フォーム状態の維持] 特性を設定し、F7 によってプログラムを実行しても、フォームのカスタマイズ情報は保持されません。

※この設定は、メインプログラムだけではなく、全プログラムにあります。

※保持している場所は、次のフォルダにある xml ファイルです。

C:\Users\<user>\AppData\Roaming\MSJ\<アプリケーションの GUID>

※GUID → プロジェクトファイル (edp) 内に記載されています。

例) <?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>

<Application>

<_Project>

<ProjectName val="Pet19"/>

<VCProjectID val="0"/>

<VCActive val="N"/>

<WorkOffline val="N"/>

<SourceDirectory val="Source"/>

<ExportsDirectory val="Exports"/>

<GUID val="{5556784D-8EEB-4DFA-96FC-59E5286FD270}"/>

<Version min="13021"/>

<SourceVersion val="13021.00"/>

</_Project>

</Application>

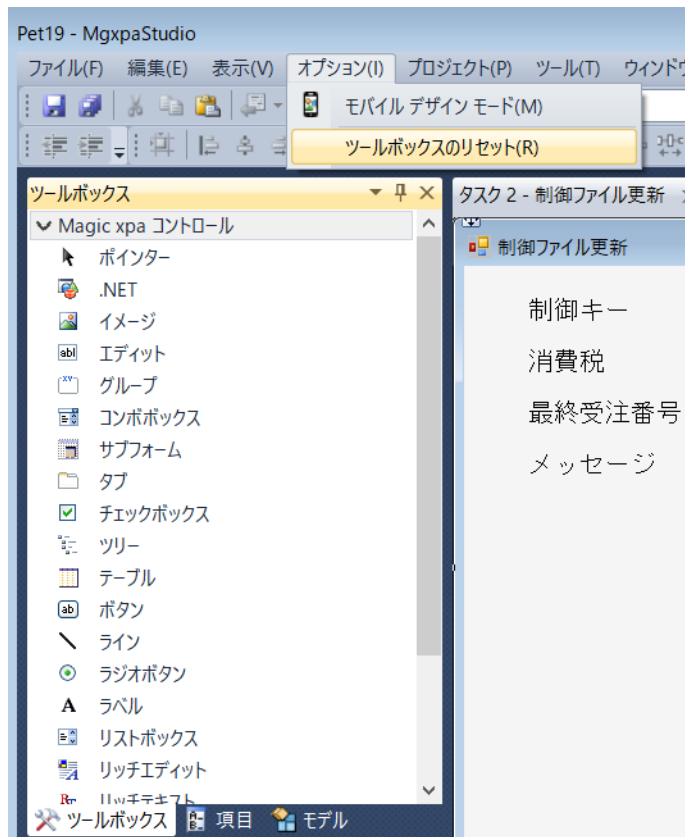
※同一アプリケーションを複数起動した場合、最後に閉じたアプリケーション情報を保持します。

※開発版でフォーム修正した場合、正常に機能しない可能性があります。

※新規プログラム作成した場合、初期値は「Yes」です。

※モデルリポジトリを使って設定することも有効です。

Visual Studio のツールボックスで問題発生したときは、オプションメニューの「ツールボックスのリセット」を使うと修復されることがあります。



(2) [楕円形] コントロールはサポートされません (To Do)

Magic xpa では、[楕円形] コントロールが削除されました。別途、画像作成してイメージコントロールで代用する等の作業が必要です。

(3) [OLE] コントロールはサポートされません (To Do)

Magic xpa では、[OLE] コントロールが削除されました。.NET コントロールで代用する等の作業が必要です。

※画面上のコントロールは削除されましたが、バッチタスクでの OLE 変数は使用可能です。

(4) [ActiveX] コントロールはサポートされません (To Do)

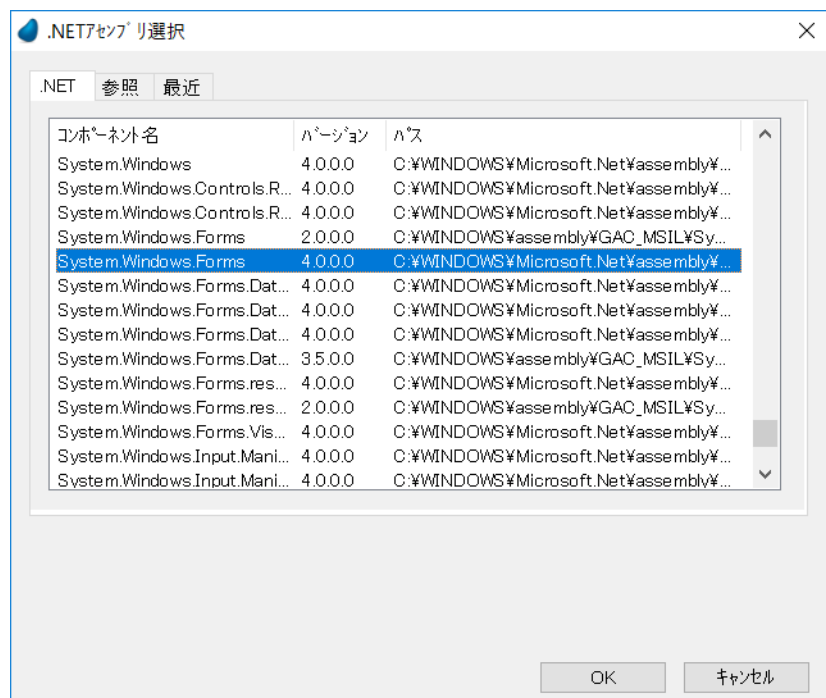
Magic xpa では、[ActiveX] コントロールが削除されました。.NET コントロールで代用する等の作業が必要です。

※.NET コントロールの使用例

コンポーネントリポジトリで新規行を作成し、タイプを「.NET」にします。

コンポーネントリポジトリ			
#	名前	説明	タイプ
1	UserFunctionality	Handles the Range, Locate, Sort and Print Dat	Magic xpa
2			.NET
			Magic xpa
			.NET
			WCF

名前欄でズームし、必要なコンポーネントを選択します。例として、表示用フォームで使用できる「System.Windows.Forms」を選択します。



プログラム内で変数を定義し、型を「.Net」にします。



変数特性のオブジェクトタイプで使用したいコントロール名を入力します。
例として「System.Windows.Forms.MonthCalendar」を使います。

変数項目特性 .Net : カレンダー

区分(C)	全体(A)
モデル	[デフォルト]
汎用	
項目番号	1
項目名	カレンダー
代入	0
詳細	
型	.Net
データビューの一部	Yes
表示名	
表示	
自動有効	0
.NET	
コンポーネントタイプ	System.Windows.Forms.MonthCalendar

フォームに配置するだけで使えます。

TEST001

2017年1月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

☐ 今日: 2017/01/05

Magic の日付項目に値をセットすることも可能です。

タスク 16 - TEST001

データビュー	ロジック	フォーム
1	M=メインソース	0
2	V=変数	1
3	V=変数	2

メインソース未定義
A. カレンダー
B. 日付変数

インデックス: 0
.Net
D=日付 YYYY/MM/DD

タスク 16 - TEST001

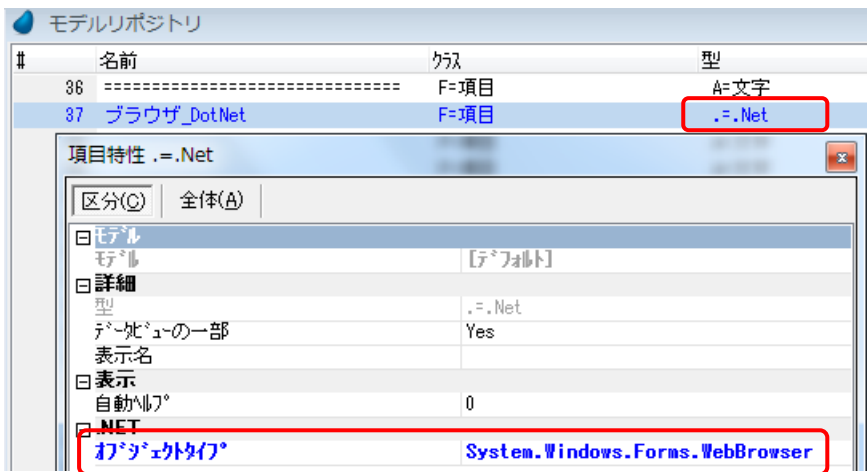
データビュー	ロジック	フォーム
1	T=タスク	P=前
2		
3	項目更新	V=項目 B //初期値セット
4	T=タスク	S=後
5	R=レポート	P=前
6	R=レポート	S=後
7	E=イベント	カレンダー.DateChanged
8	項目	P=パラメータ 1 C.sender
9	項目	P=パラメータ 2 D.e
10	項目更新	V=項目 B 日付変数

値: 1 DVal(カレンダー.SelectionStart.ToShortDateString(), 'YYYY/MM/DD')

スコプ: T=タスク
.Net
= .Net

DVal(A.SelectionStart.ToShortDateString(), 'YYYY/MM/DD')

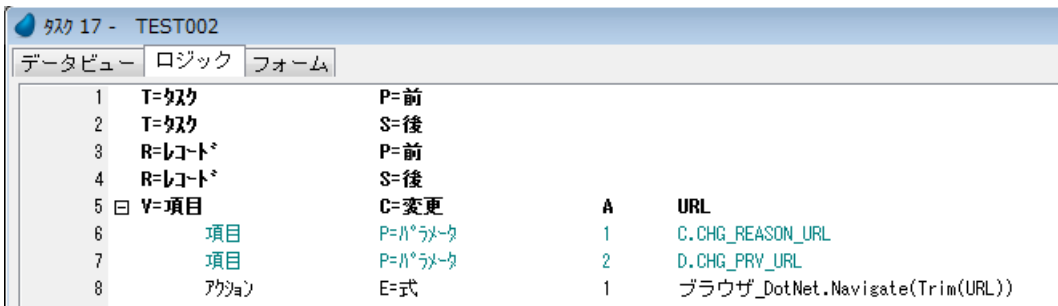
モデルリポジトリを使うことも可能です。
例としてブラウザを使えるようにします。
特性のオブジェクトタイプで「System.Windows.Forms.WebBrowser」を設定します。



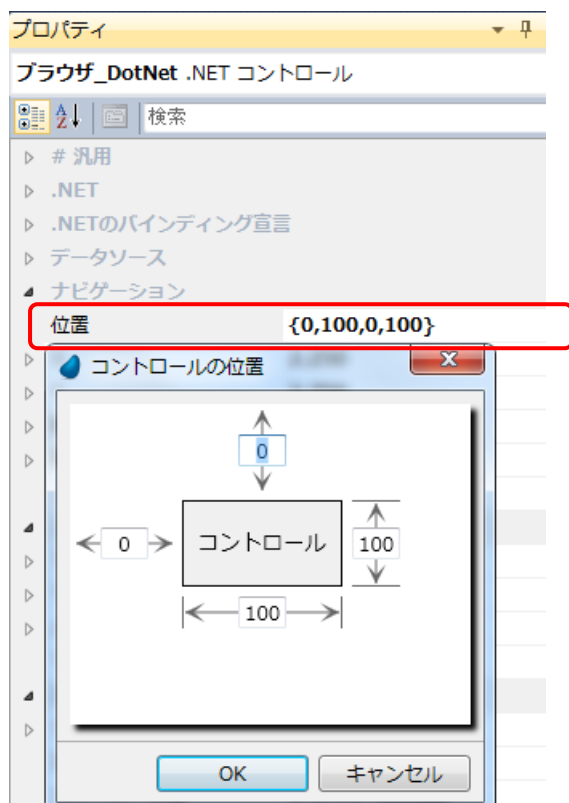
プログラム内で変数定義する際、該当のモデルを適用します。



必要に応じて、ロジックを組み立てます。下図は簡単な例です。



フォームでのブラウザの位置特性は「0, 100, 0, 100」にしておくの良いかもしれません。



(5) 分割フォームはフレームフォームに変更されました (To Do)

(6) 分割子ウィンドウは変更されました (To Do)

uniPaaS では分割フォームを使う場合、フォーム特性に設定しました。

#	名前	クラス	区分
1	メインプログラム		0
2	分割フレーム		0

フォーム特性 G=GUI表示形式 - 分割フレーム	
区分(C)	全体(A)
分割	
ウィンドウ分割	H=水平
初期表示	D=デフォルト
分割割合 %	10.00 0
分割位置	0

フレームに入る子タスクのフォームタイプは「分割子ウィンドウ」でした。

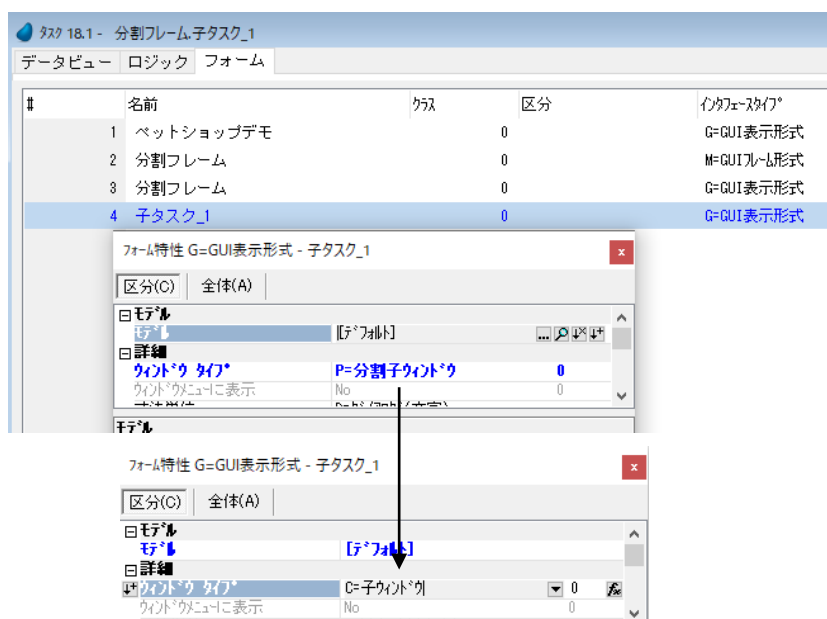
#	名前	クラス	区分
1	メインプログラム		0
2	分割フレーム		0
3	子タスク_1		0

フォーム特性 G=GUI表示形式 - 子タスク_1	
区分(C)	全体(A)
モデル	
モデル	[デフォルト]
詳細	
ウィンドウタイプ	P=分割子ウィンドウ 0
ウィンドウリストに表示	No 0

xpa では、これら設定が変更されているため、自動的に変換されています。

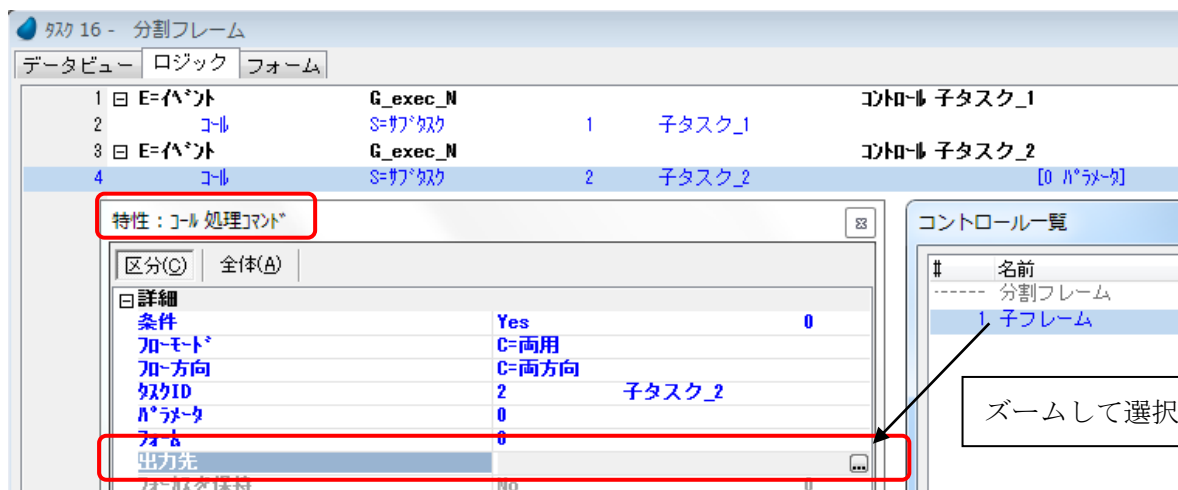
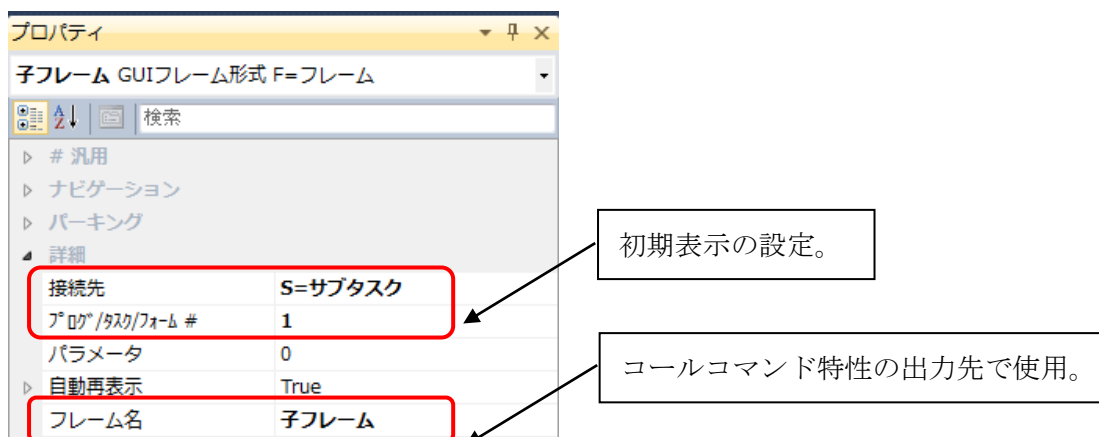
#	名前	クラス	区分	ウィンドウタイプ
1	ペットショップデモ		0	G=GUI表示形式
2	分割フレーム		0	M=GUIフレーム形式
3	分割フレーム		0	G=GUI表示形式

xpa 4.6 では、[P=分割子ウィンドウ]設定が残っておりますが、利用出来ませんので[C=子ウィンドウ]への変更が必要です。



ロジック等の変更も必要です。

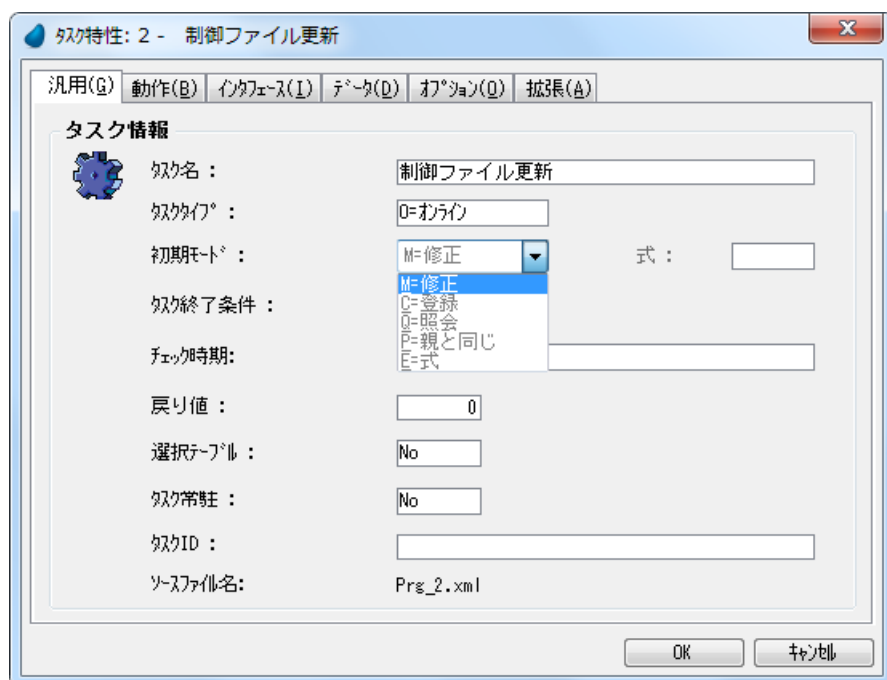
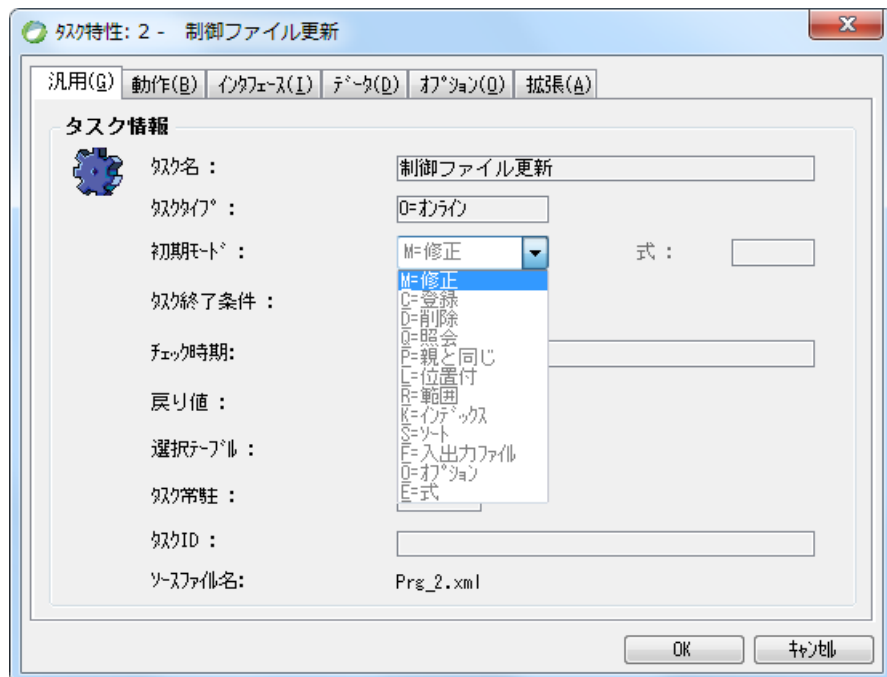
フレーム特性でフレーム名等、必要事項を設定します。



(7) タスクの「削除」モードはサポートされません (To Do)

タスクの削除モードは、オンラインタスクでサポートされなくなりました。

※バッチタスクでは有効です。

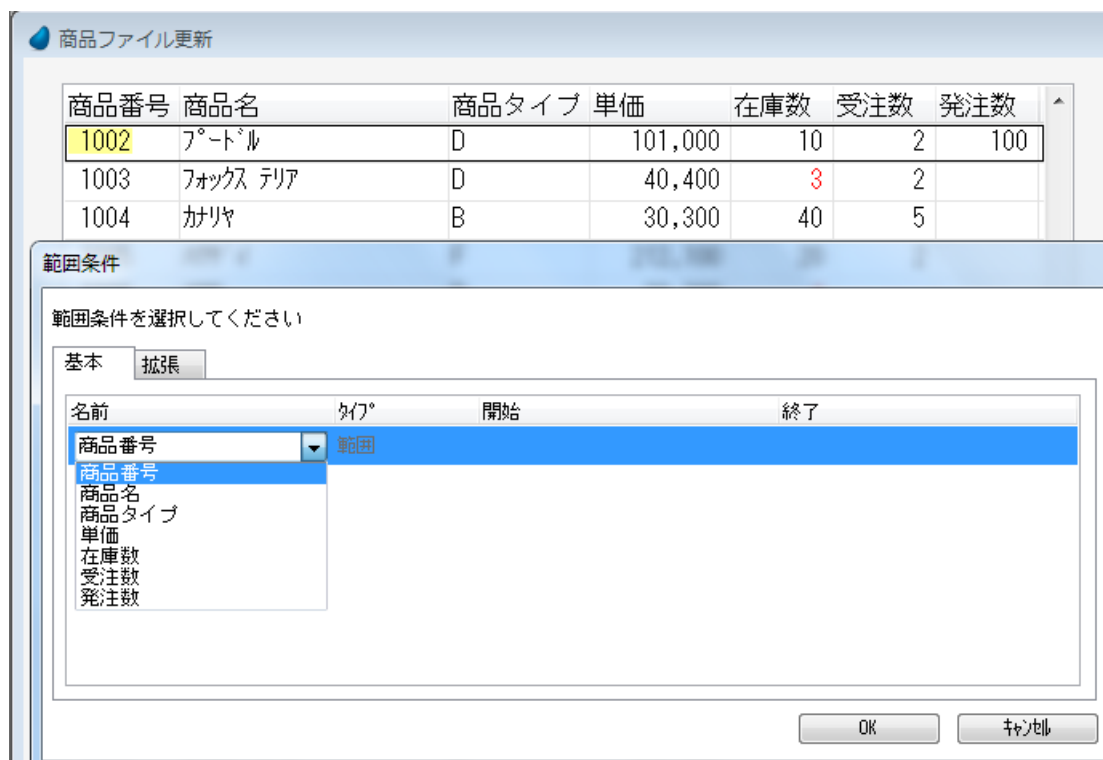


- (8) タスクの [位置付] モードはサポートされません (To Do)
- (9) タスクの [範囲] モードはサポートされません (To Do)
- (10) タスクの [ソート] モードはサポートされません (To Do)

uniPaaS と xpa とでは、位置付、範囲、ソート機能の提供形態が異なります。

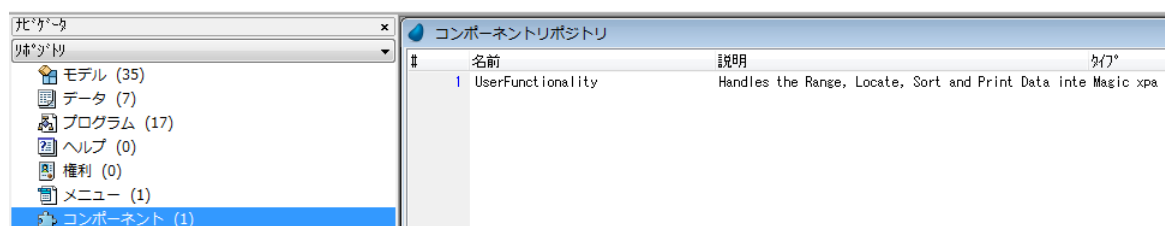
そのため、タスクの初期モードとしては使えなくなりました。

また、実行時、オプションメニューやショートカットキー等で機能呼び出したときも異なる画面が表示されます。xpa で範囲 (CTRL+R) を使うと、このような表示になります。



位置付、ソート、インデックスも同様のウィンドウが表示されます。

この機能は、Magic で作られたプログラムでコンポーネントリポジトリに登録することによって使えるようになっています。



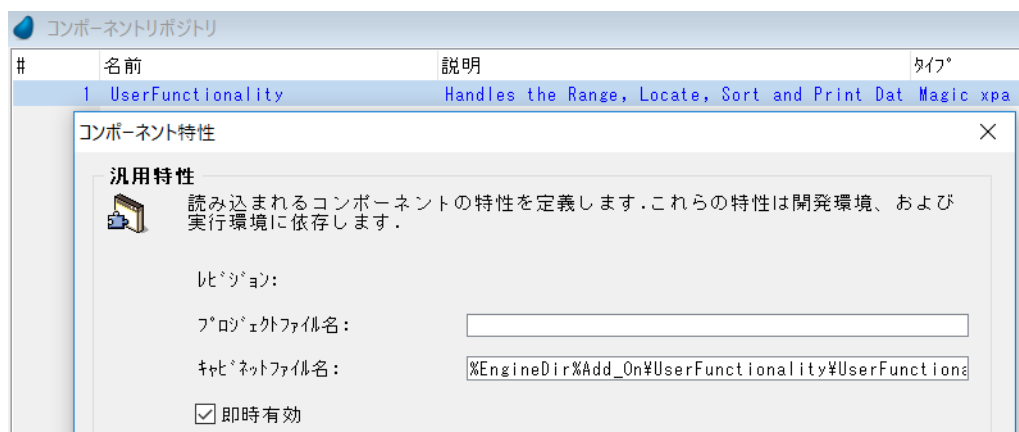
新規プロジェクト作成時には自動的に登録されます。

マイグレーション時には、アップグレードウィザードでチェックを付けることによって登録されます。

このプロジェクトは標準インストールの場合、以下のフォルダにあります。

C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 4.6\Add_On\UserFunctionality

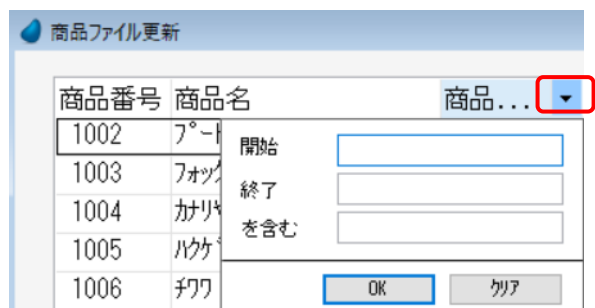
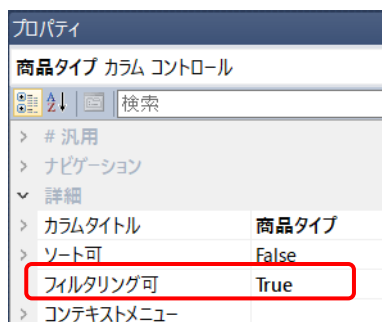
※実行時には、ecf が呼び出されています。



キャビネットファイル名の欄は、次のように設定されています。

%EngineDir%Add_On¥UserFunctionality¥UserFunctionality.ecf

※その他の機能として、カラムのフィルタリングがあります。

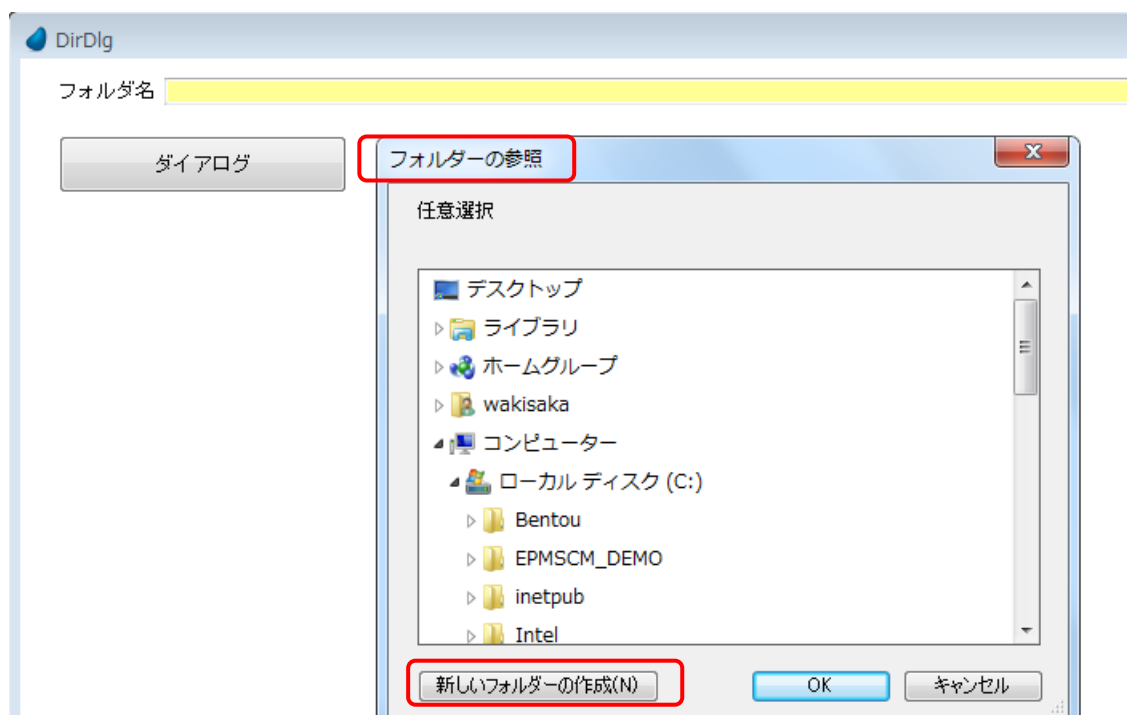
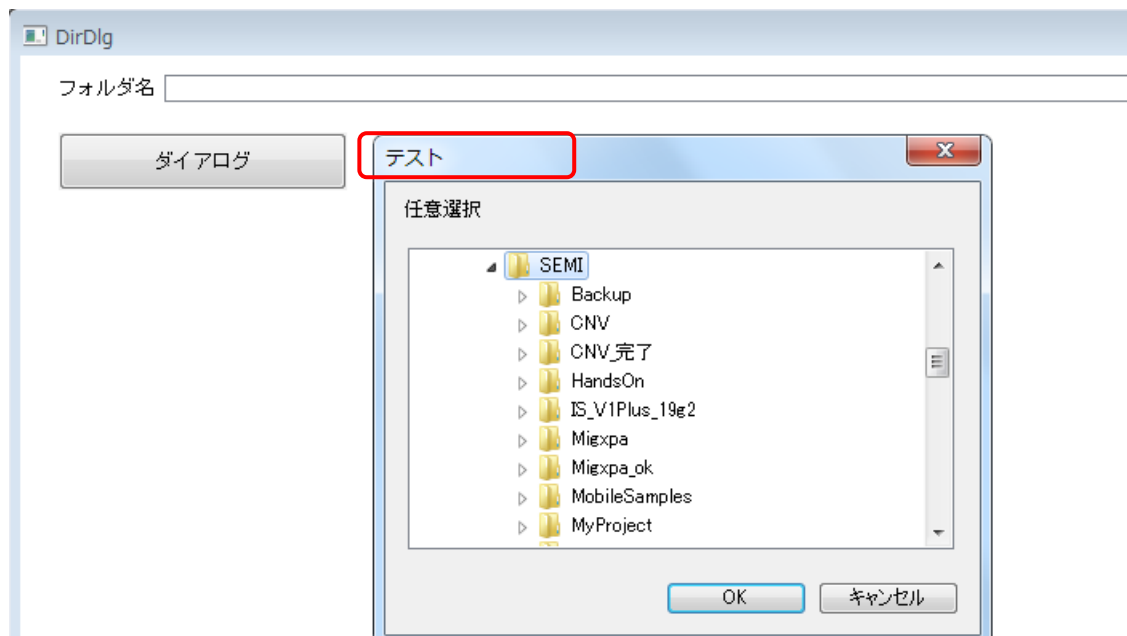


(11) DirDlg()関数の構文は変更されました (To Do)

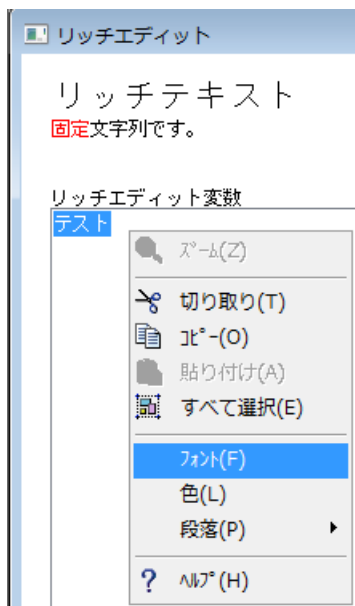
次のように変更されています。

uniPaaS : DirDlg (ウィンドウタイトル, タイトル, ルート, フラグ)

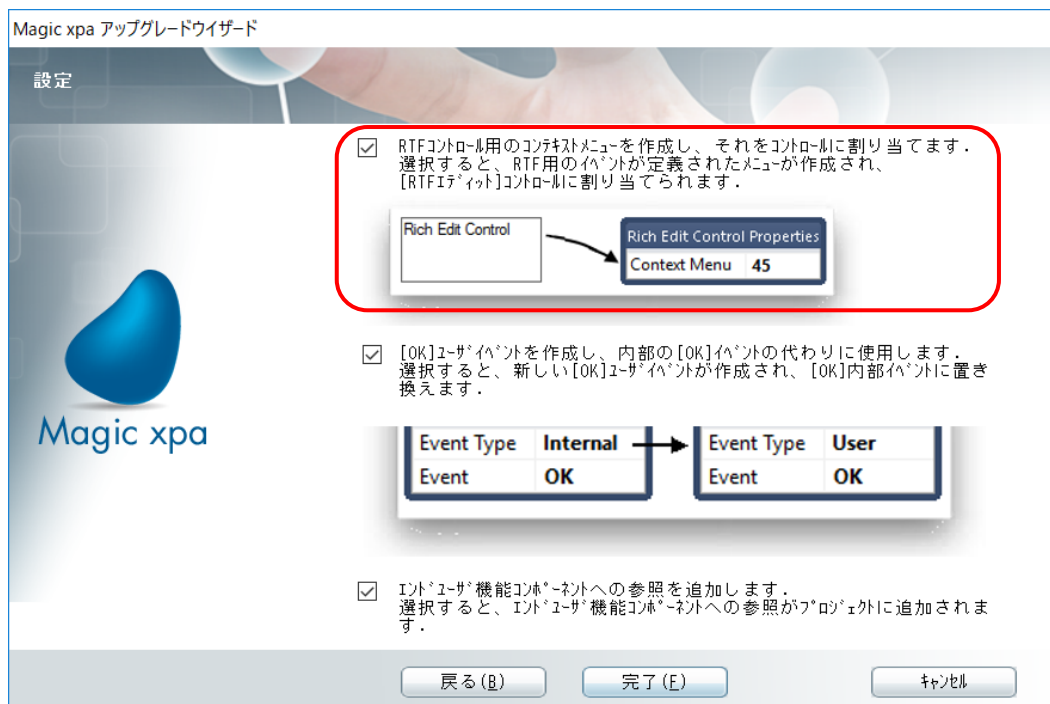
xpa : DirDlg (タイトル, ルート, 新規フォルダ表示)



- (12) [RTF エディット] コントロールのデフォルトのコンテキストメニューは削除されました (To Do)
uniPaaS の場合、リッチエディットの編集時、自動的にコンテキストメニューが表示されました。

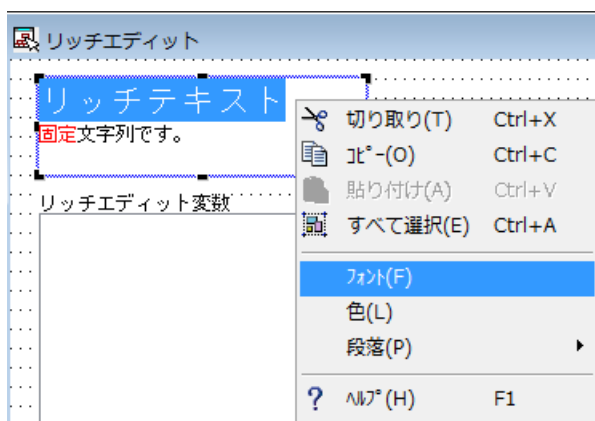
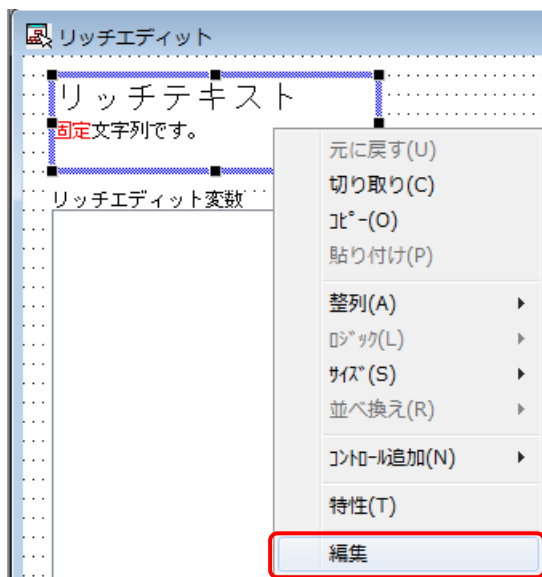


xpa では、アップグレードマネージャで自動作成を設定することも可能です。

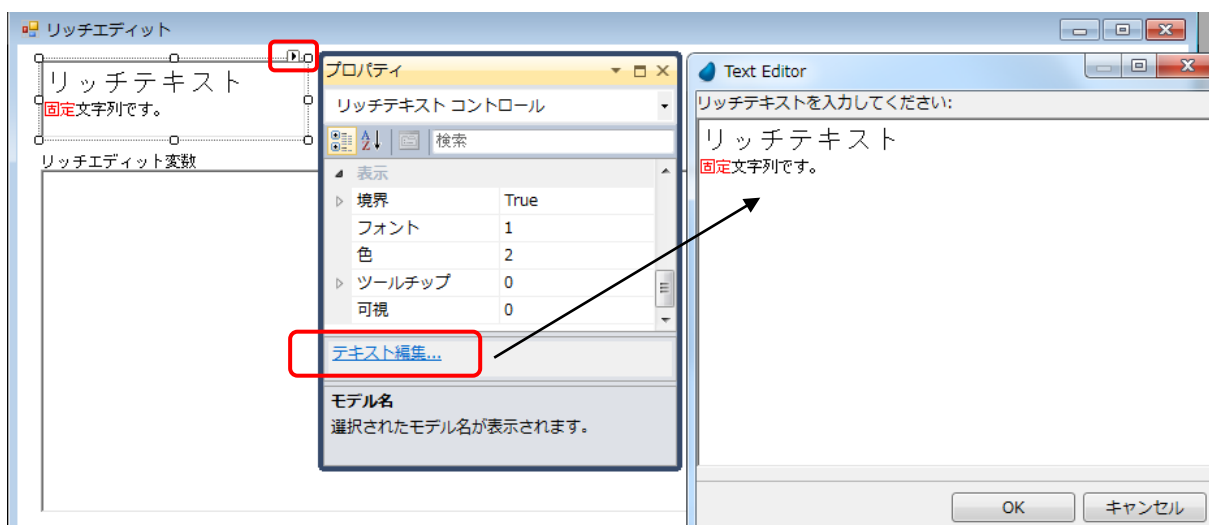


※固定文字列のリッチテキストコントロールの場合

uniPaaS では、開発時画面で自動的にコンテキストメニューが表示されました。



xpa では、テキスト編集画面を表示することは可能ですが、コンテキストメニューは表示されません。

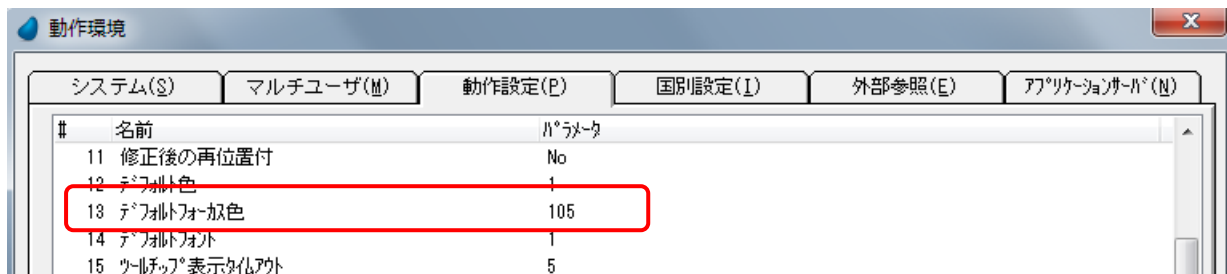


(13) Get.dll が式で使用されています (To Check)

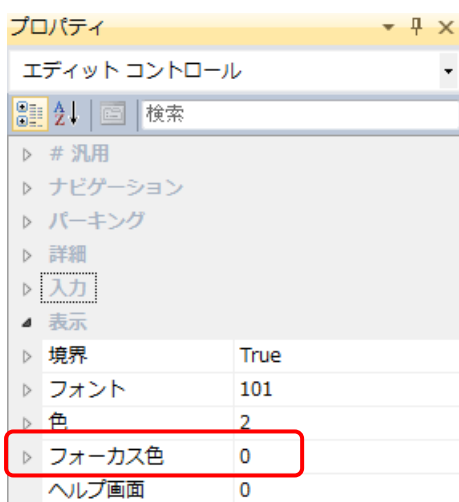
画面に関する制御に外部 DLL を使用している場合、xpa では無効化されます。

代表例は、Get.dll によるパーク項目の背景色を変更するケースです。

xpa では、Magic.ini でフォーカス色を指定できるようになりました。

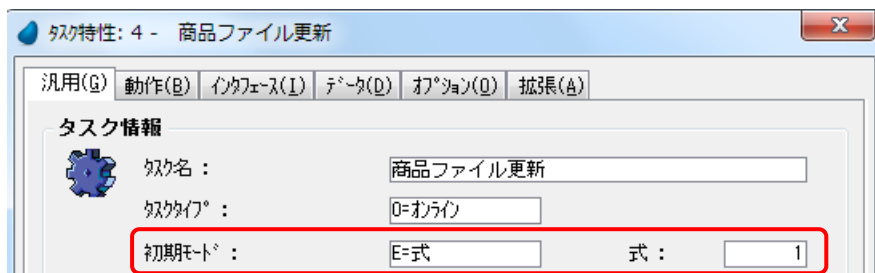


また、各エディットコントロールのプロパティで設定することも可能です。



(14) サポートされないタスクモードが定義されています (To Check)

タスクの初期モードに「式」を設定している場合、警告されますが、実際には問題なく動作することも多いと思われます。



登録、修正、照会モードは式で設定されても問題ありません。

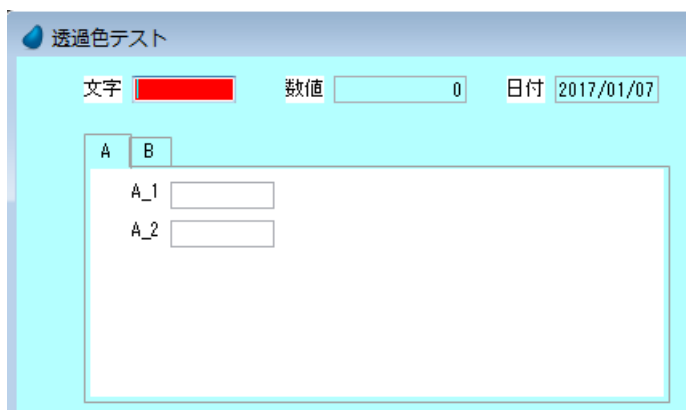
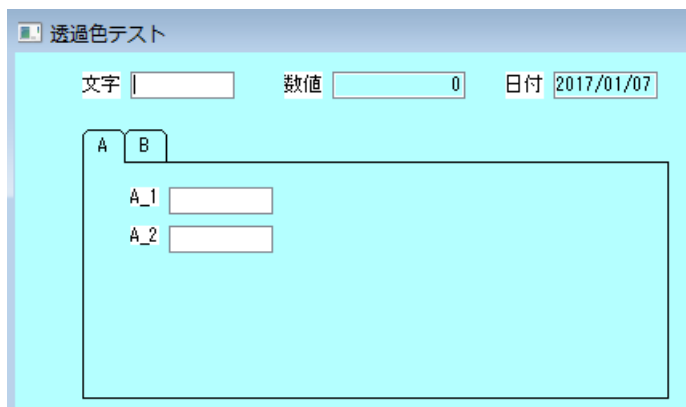
従って、このような例では、基本的に修正不要です。

IF (Level (1)='RM','Q' MODE,'M' MODE)

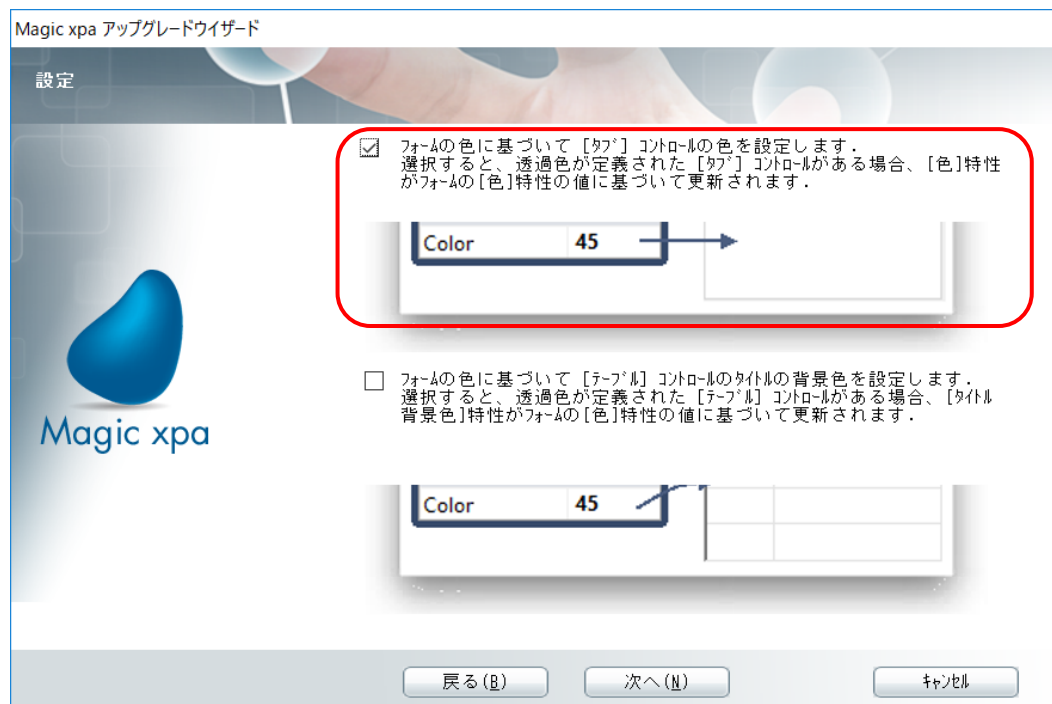
※Level (1)で 'RM' が取得できるのは、RM 互換からコールしている場合です。

(15) [タブ] コントロールは、透過の背景色をサポートしません (To Check)

xpa では、フォームと同じ色の [タブ] コントロールを定義したい場合、タブの色をフォームに対応したものに変更する必要があります。



アップグレードウィザードで自動修正を設定することも可能です。



該当したものとあると、アップグレードマネージャーでは次のメッセージが表示されます。

→ フォームの色が [タブ] コントロールに割り当てられました (To Check)

xpa ではタブコントロールの特性値が増えています。この機会にモデルリポジトリの適用を検討することも有効かと思われます。



※Bold (太字) の特性値は継承解除されています。モデル適用時には注意が必要です。

Optimizer を使うと各コントロールの使用状況が確認できるので、モデル適用の際に便利です。

Magic Optimizer - Pet19.edp

最適化 可視化 クロスリファレンス リポトリ照会 移行 ドキュメンテーション 多言語化 ヘルプ

リポトリ テーブル リレーション図(U) プログラム 階層図(W) ABC 文字列を抽出(P) 特性から逆引(E) 標準とルール プロジェクト メトリックス 埋め込みSQL リポトリ .Net リポトリ

可視化

リスト オブジェクト一覧

タスクタイプ: ☒ (1) オンライン ☒ バッチ ☒ ブラウザ ☒ リッチクライアント

プログラム #	ヌカ	名称	フォルダ
22	22	透過色テスト_タブ	

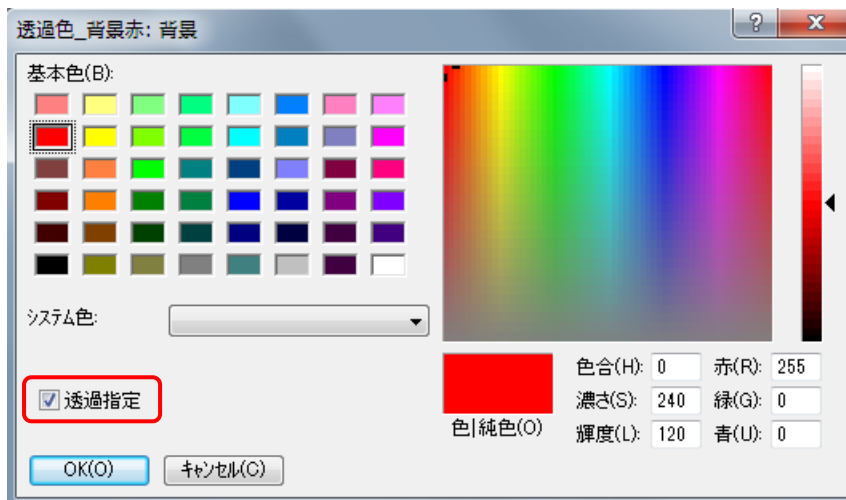
モデル
データ
プログラム
タイプ
拡張
トランザクション
I/O
処理
式
その他
フォーム コントロール
エディット (43)
テキスト (36)
フラッシュボタン (20)
チェックボックス (2)
ツリー
ラジオボタン
タブ (1)
テーブル (16)
リストボックス
コンボボックス (3)
グループ (1)
サブフォーム (2)

※透過色の背景色

透過色テストのサンプル画面では、エディットコントロールの背景色にも違いがあります。

uniPaaS の文字項目は白、xpa の方は赤になっています。

実際の色の設定は「赤」です。



xpa では、透過指定されていても、パーク時には背景色が有効になります。

但し、フォーカス色が設定されている場合、そちらが優先されます。

(Magic.ini のデフォルトフォーカス色も有効です。)

※Magic.ini で「SpecialIgnoreBGinModify = Y」を指定すると、背景色を無視して白色にすることができるようになりましたが、フォーカス色を使う方が分かりやすく良いでしょう。

※フォームに透過色の設定は不可

フォーム自体の透過色は無効です。

(16) [テーブル] コントロールはタイトルで透過の背景色をサポートしません (To Check)

xpa では、テーブルコントロールの透過は無効です。アップグレードウィザードの設定はチェックを外して目視確認した方が良さそうです。

Magic xpa アップグレードウィザード

設定

☒ フォームの色に基づいて [タブ] コントロールの色を設定します。
選択すると、透過色が定義された [タブ] コントロールがある場合、[色]特性がフォームの[色]特性の値に基づいて更新されます。

Color 45

☐ フォームの色に基づいて [テーブル] コントロールのタイトルの背景色を設定します。
選択すると、透過色が定義された [テーブル] コントロールがある場合、[タイトル背景色]特性がフォームの[色]特性の値に基づいて更新されます。

Color 45

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

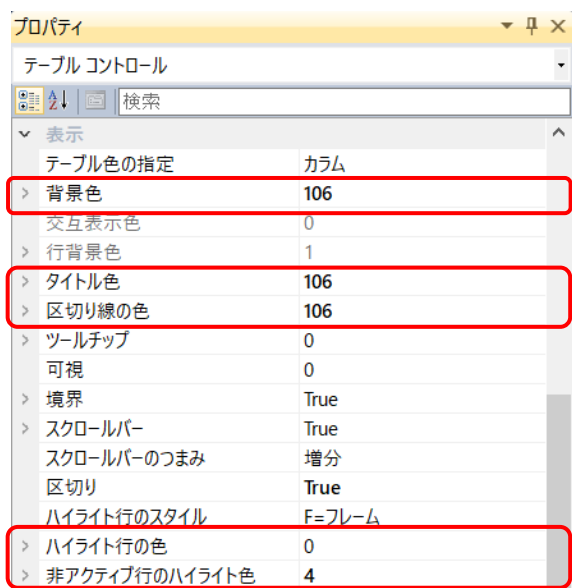
全透過

商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1002	フートル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	
1004	カリヤ	B	30,300	40	5	
1005	ハクダイ	F	212,100	20	2	

全透過

商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1002	フートル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	
1004	カリヤ	B	30,300	40	5	
1005	ハクダイ	F	212,100	20	2	

xpa ではテーブルコントロールの特性値が増えています。この機会にモデルリポジトリの適用を検討することも有効かと思われます。

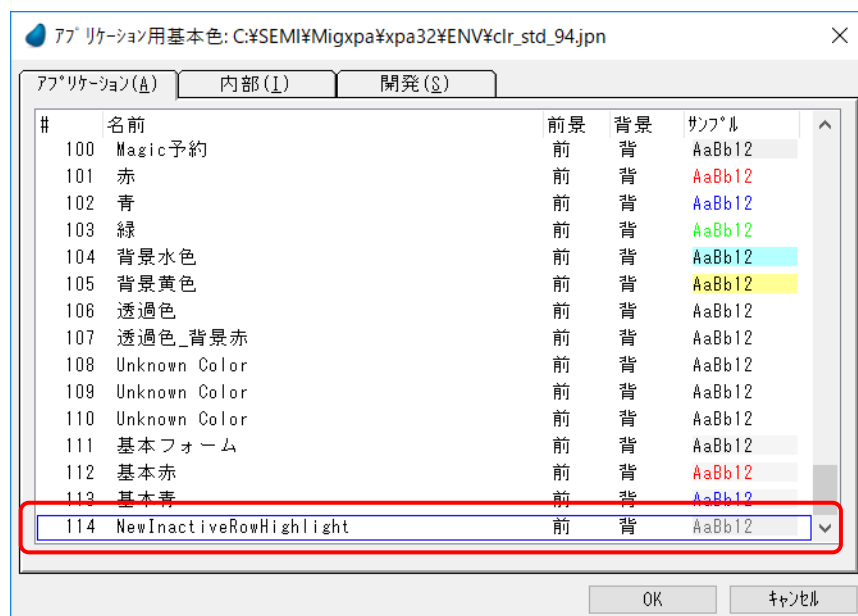
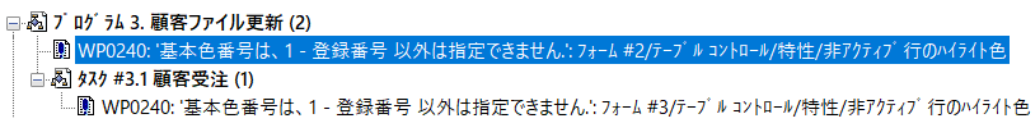


※Bold（太字）の特性値は継承解除されています。モデル適用時には注意が必要です。

非アクティブ行のハイライト色はコンバーターが新しく色を作成しようとしてますが、ファイルに書き込みできず再起動時にチェック（F8）でエラーになることがあります。

その場合、色定義ファイルの最終行に手動作成してエラーを回避します。（下図では 114 番）

チェック結果

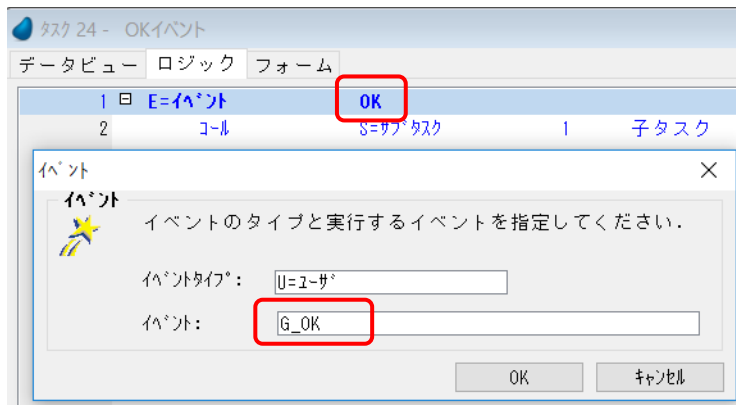


(17) サポートされなくなったイベントがあります (To Check)

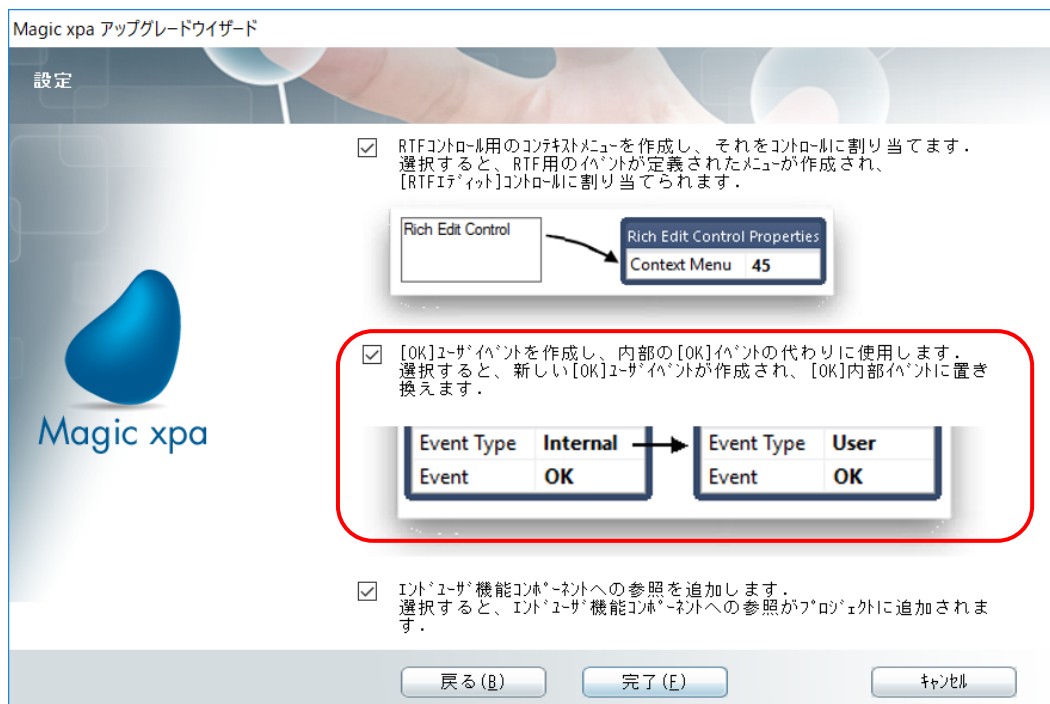
xpa では、OK イベント（内部）が使えなくなりました。ユーザイベントで代用する等の作業が必要です。

イベント: 1- メインプログラム

#	名前	トリガタイプ	トリガ	パラメータ	強制終了
1	G_exec_N	N=なし		0	N=なし
2	G_exec_E	N=なし		0	E=編集
3	G_OK	N=なし		0	N=なし



アップグレードウィザードで自動修正を設定することも可能です。



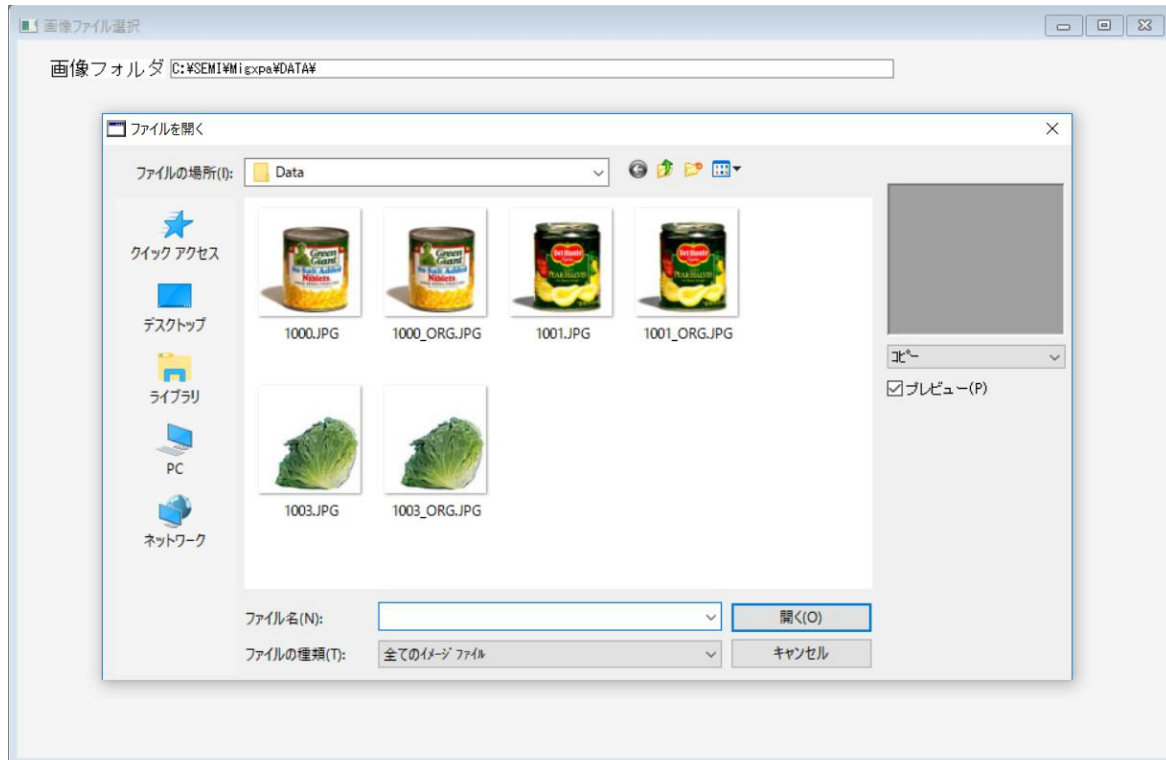
該当したものとあると、アップグレードマネージャーでは次のメッセージが表示されます。

→ [OK] の内部イベントが、ユーザイベントに置き換えられました (To Know)

(18) [イメージ]コントロールでサポートされなくなった特性があります (To Check)

uniPaaS では、イメージコントロールをクリックしてファイルダイアログを表示することができましたが、xpa ではイメージコントロールにパークできないため、そのような動作にはなりません。

自力でクリックイベントを追加して対応することは可能です。



タスク 26 - 画像ファイル選択									
データビュー ログ フォーム									
1	□	T=タスク	P=前						
2		項目更新	V=項目	A	画像フォルダ	値:	1	Translate('%DATX%')	
3		T=タスク	S=後						
4		R=レポート	P=前						
5		R=レポート	S=後						
6	□	E=イベント	クリック		コントロール 画像ファイル (フルパス)			スコープ: T=タスク	
7		項目更新	V=項目	B	画像ファイル (フルパス)	値:	2	FileDialog('イメージ',Translate('%	

(19) [スライダ] コントロールはサポートされていません (To Know)

Magic xpa では、[水平スライダ] [垂直スライダ]コントロールが削除されました。

スライダコントロールはエディットコントロールに変換されています。

.NET コントロール (TrackBar) で代用する等の作業が必要です。

4. F8 チェック

uniPaaS では問題ないプログラムが、xpa でチェック (F8) すると警告表示されることがあります。

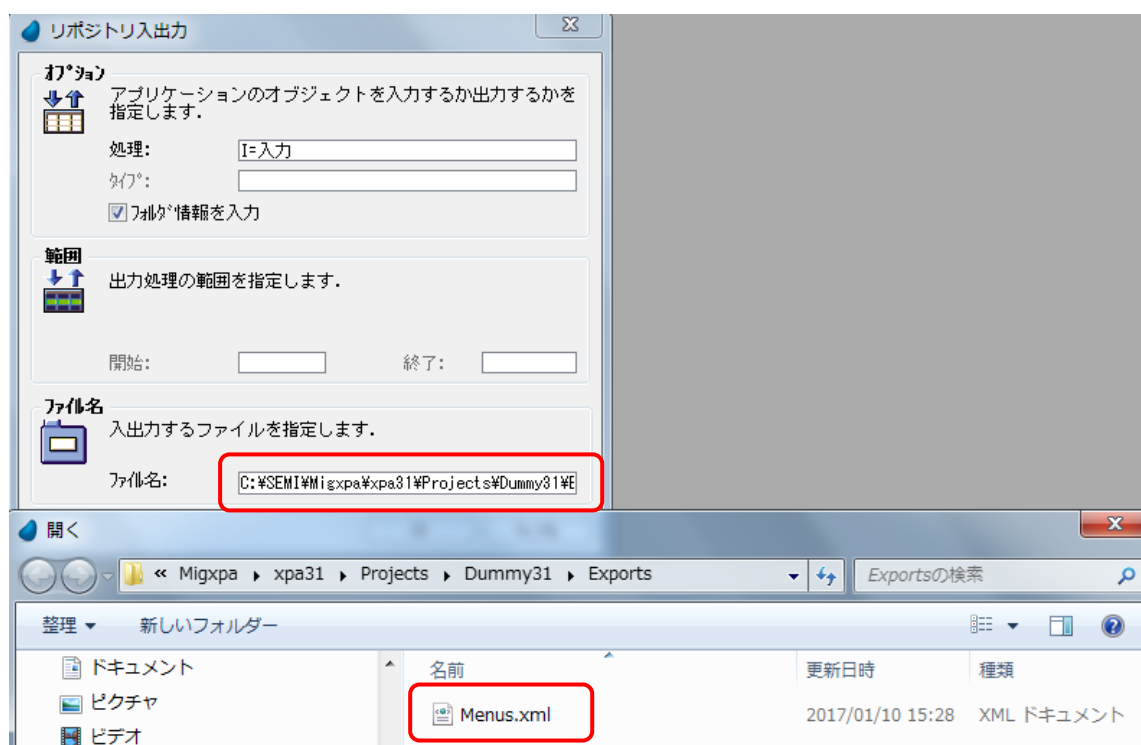
また、チェックでは問題なくても、修正を加えようとするエラーになったり、実行してみると今までの動作と異なる、というケースもあります。代表的なものを挙げて内容を検討してみましょう。

- ・メニューリポジトリ：このイベントは、サポートされていません

Magic.ini 関連の設定や、OLE 関連のイベント等は、xpa の実行版では使用不可となります。

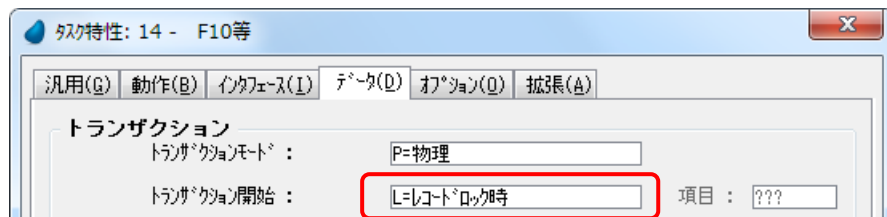
一つずつ確認しながら、削除するのが確実かと思われます。

または、新規の xpa プロジェクトからメニューをリポジトリ出力して取り込むという方法も考えられます。



・タスクはトランザクションを開始するように設定されていますが・・・

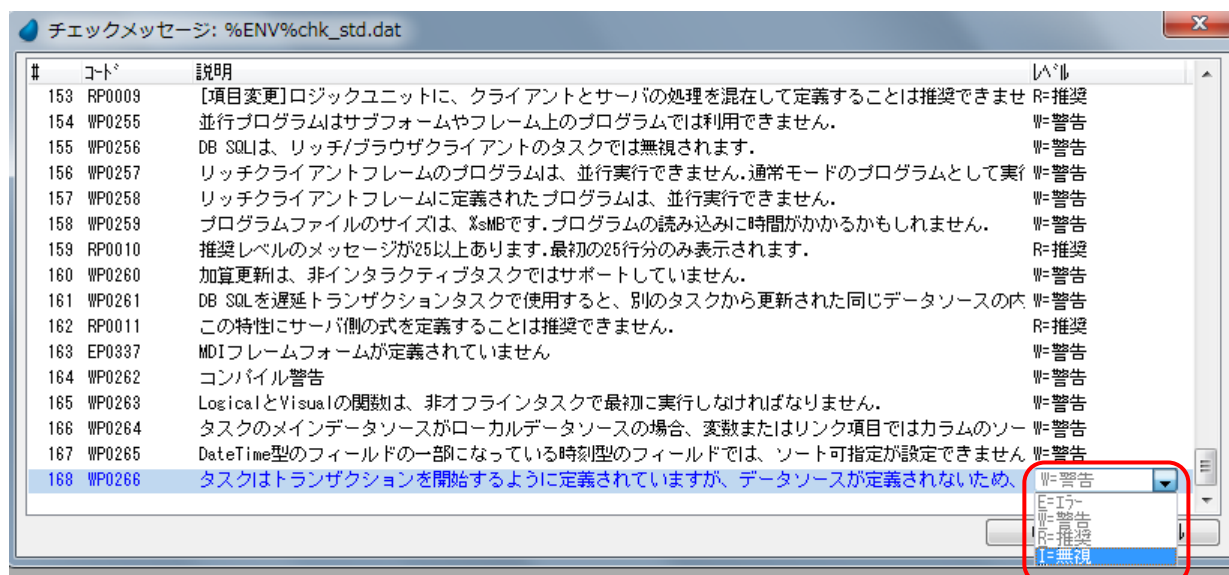
トランザクションは開始できません、という警告です。このようなタスクの場合、正しいのはトランザクション開始を「なし」にすることです。



とりあえず警告を出さないでほしい、ということであれば、チェックメッセージを変更することで対応することも可能です。

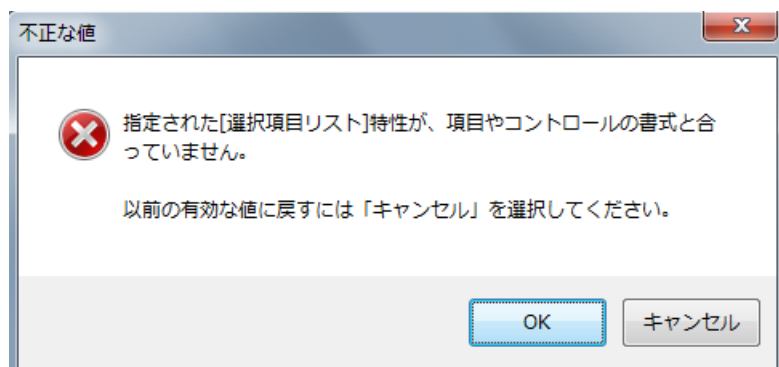
プルダウンメニューから、オプション → 設定 → チェックメッセージを選択します。

コード「WP0266」を「警告」から「無視」に変更します。



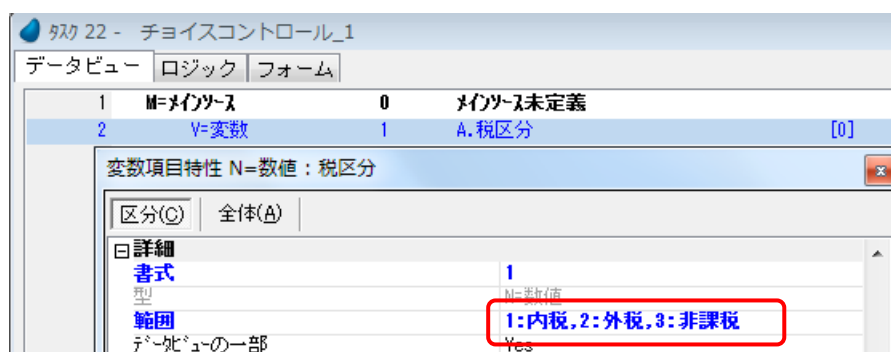
- ・数値型のコンボボックス

数値型の項目をコンボボックスで使用し、選択項目リスト編集しようとする、「不正な値」というタイトルのエラーになることがあります。

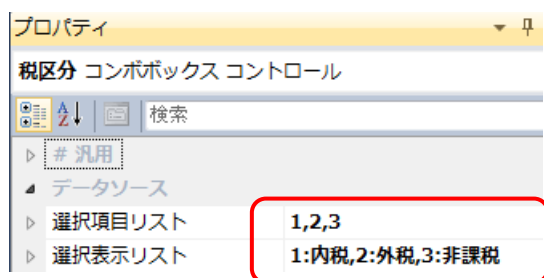


この場合、次のような回避策が考えられます。

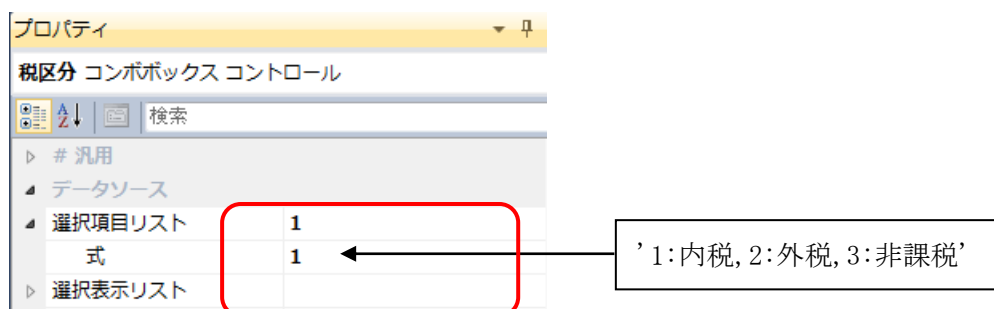
a) 変数の範囲欄に入力し、コントロール特性で継承。



b) コントロール特性の選択表示リストを併用。




c) 選択項目リストの式を使用。



- ・選択値として半角スペースを含むコンボボックス

uniPaaS では選択項目リストの半角スペースを値として認識しますが、xpa では自動的にトリミングします。そのため、下図のように実行結果に差が出ることがあります。

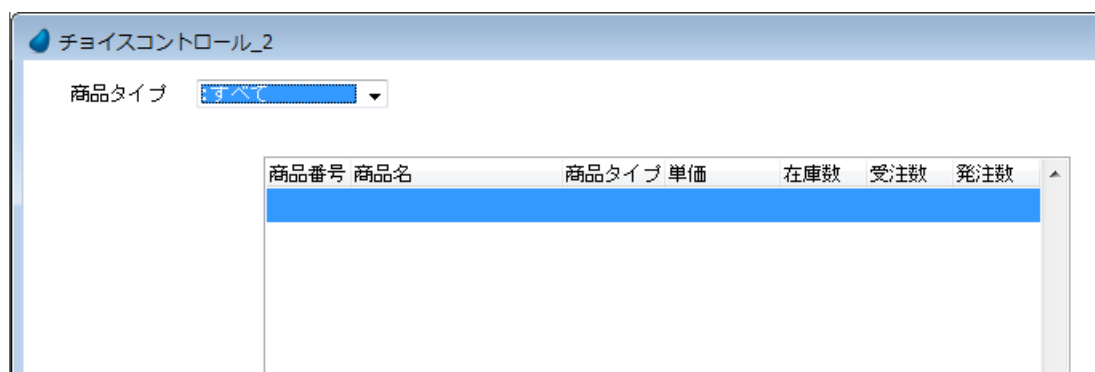
uniPaaS では、コンボボックスの値を「空白」と認識し、全件表示しています。



商品タイプ: すべて

商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1004	ガリヤ	B	30,300	40	5	
1009	パンショウ	B	8,080	6		
1013	オム	B	3,030	12	3	
1103	ジュウマツ	B	2,020	21	3	
1121	イコ	B	20,200	65	10	
1002	フートル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	

xpa では、コンボボックスの値を「:」と認識するので、該当データなし、となっています。

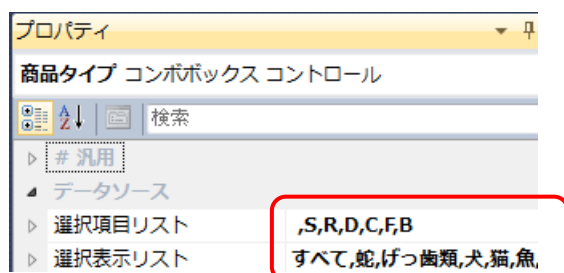


商品タイプ: すべて

商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数

次のような回避策が考えられます。

- コントロール特性の選択表示リストを併用。



プロパティ

商品タイプ コンボボックス コントロール

汎用

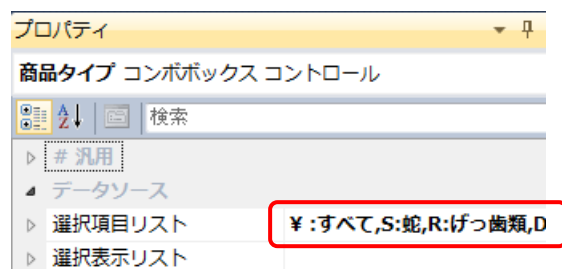
データソース

選択項目リスト: ,S,R,D,C,F,B

選択表示リスト: すべて,蛇,げっ歯類,犬,猫,魚

b) エスケープ文字 (¥) を使用。

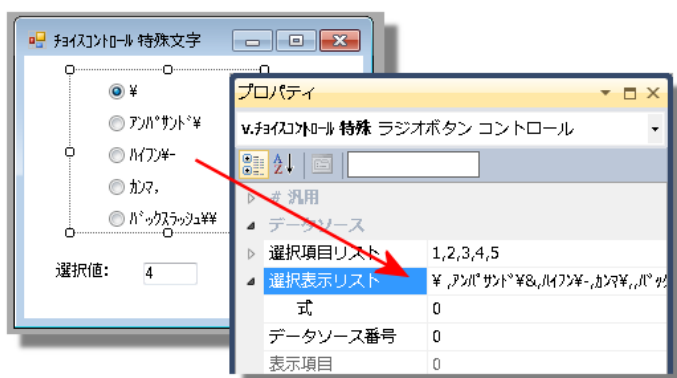
半角スペースの前にエスケープ文字 (¥) を付けると、値として有効になります。



[ホーム](#) > [Magic xpa 逆引き辞典](#) > [GUIの処理](#) > チョイスコントロールに特殊文字を表示するには



チョイスコントロールに特殊文字を表示するには



いくつかの文字は、内部的に チョイス コントロールで使用されています。例えば、カンマは、選択項目を区切り文字として使用されています。リスト内でこれらの文字を使用するためには、エスケープ文字として バックスラッシュ (¥) を前に付加する必要があります。ここで示されているように、空白、アンパサンド、およびカンマ がこれに当てはまります。

5. キーボード割付

xpa の式エディタとフォームエディタは、通常のキーボード割付ファイル (act_std. jp) ではなく、別のルールで割付されています。uniPaaS と異なるところをいくつか例示してみます。

<式エディタ>

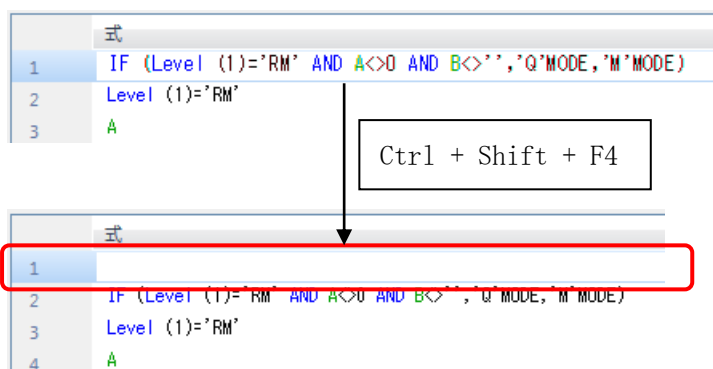
- ・先頭行に式を追加

F4 を押せば、現在行の下に式を作成することができます。これは従来通りです。

では、既に数行の式が入っている状態で、先頭行に式を追加したい場合は、どのように操作するのでしょうか？

xpa では、1 行目にパークした状態から ↑ キーを押しても移動できません。

その代わりに、「Ctrl + Shift + F4」を押すと、パーク行の上に追加することができます。

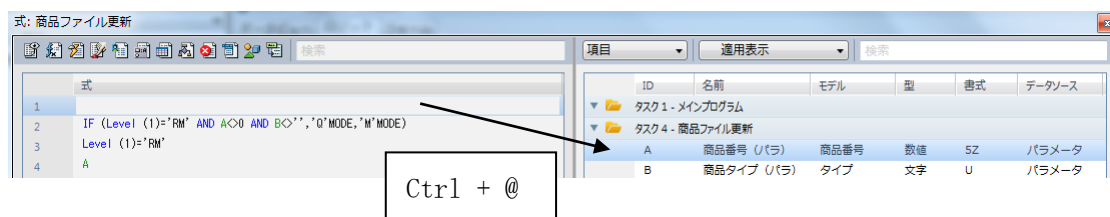


- ・項目一覧にショートカットキーで移動

uniPaaS では、式エディタで F5 を押すと、右の項目一覧ウィンドウに移動できました。

xpa では、F5 を押しても移動できません。

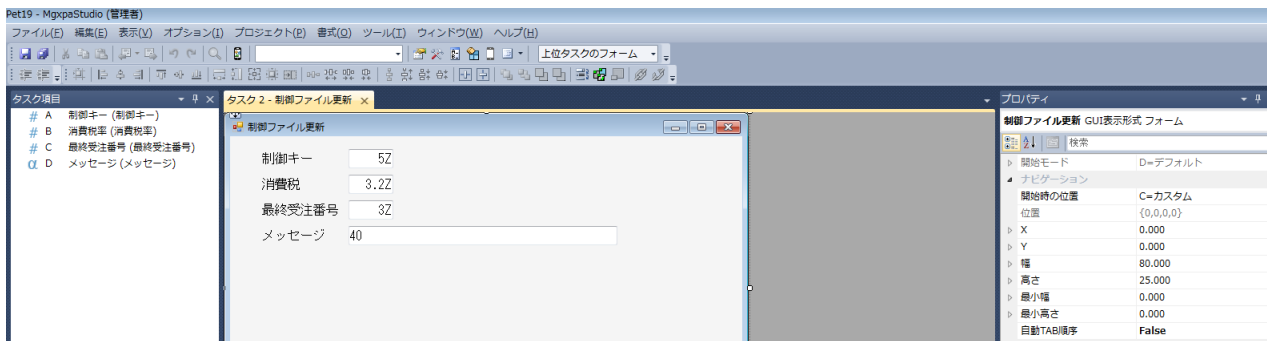
「Ctrl + @」を押すと移動します。



<設定画面>

このキー割付の設定画面を確認してみましょう。

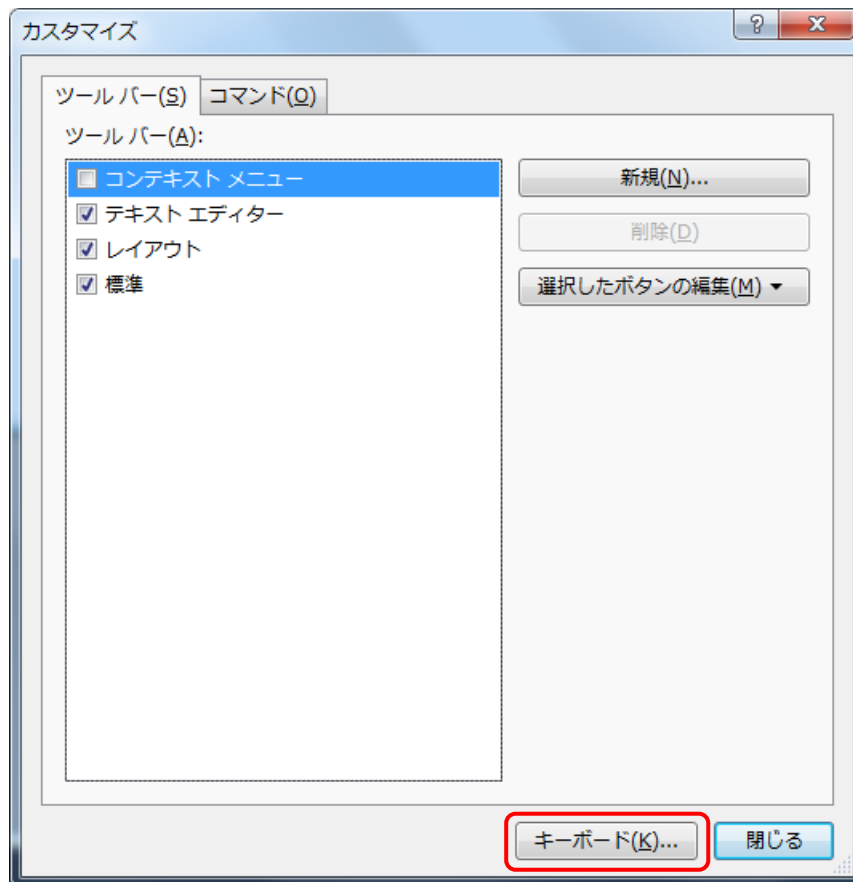
フォームをズームします。(どの画面でも構いません。)



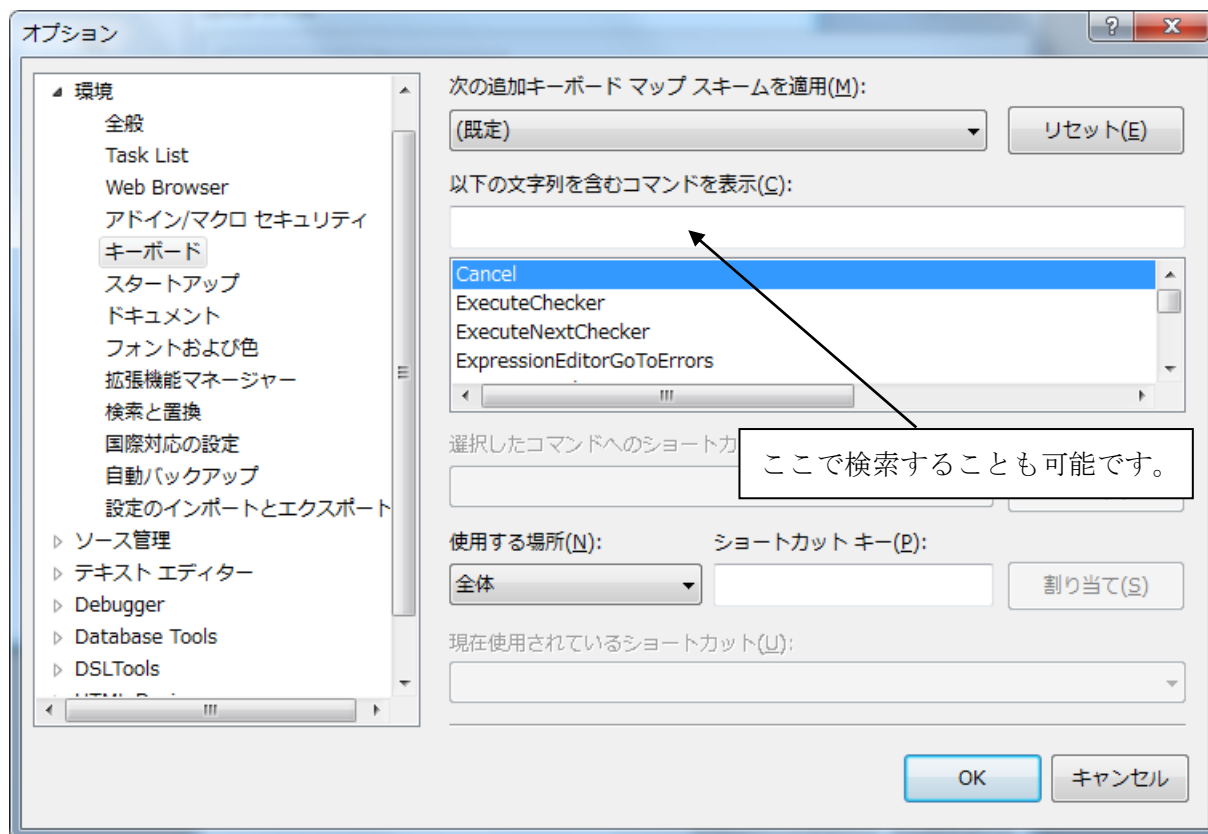
ツールメニューのカスタマイズを選択します。



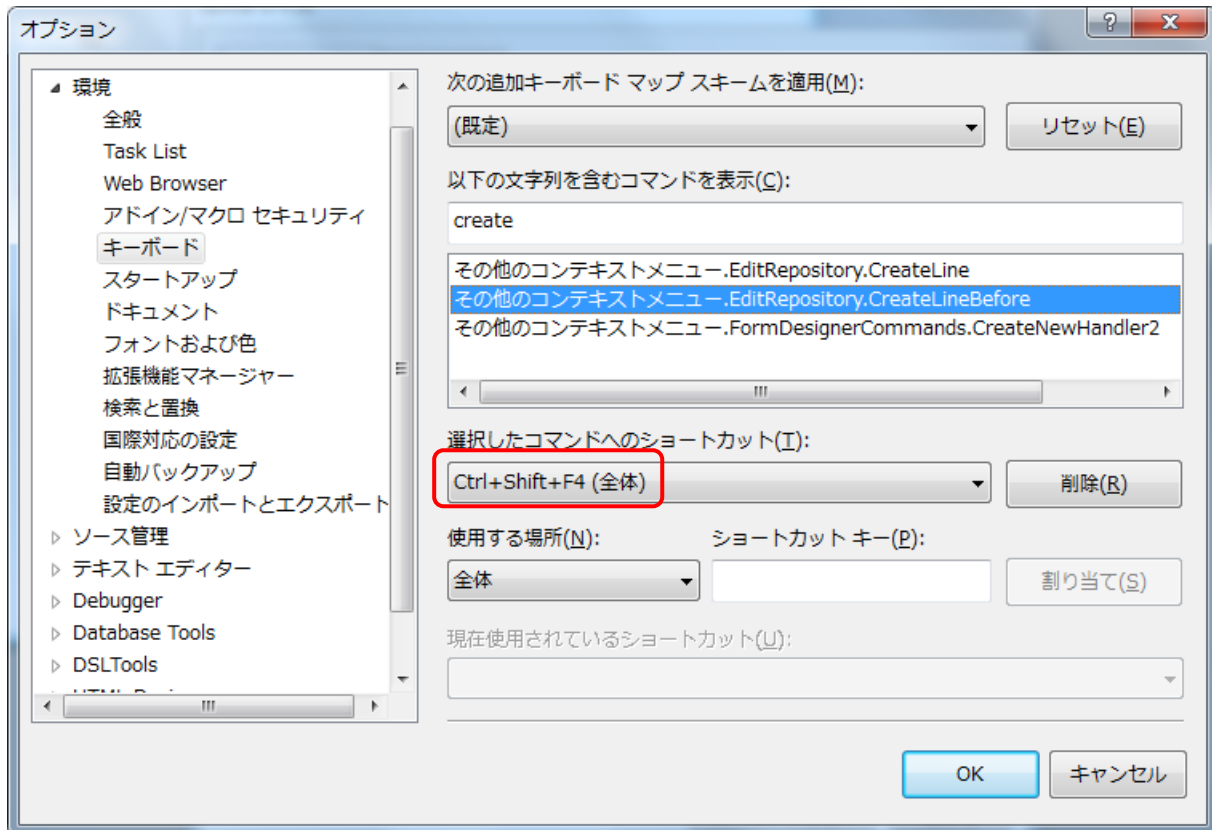
キーボードボタンを押します。



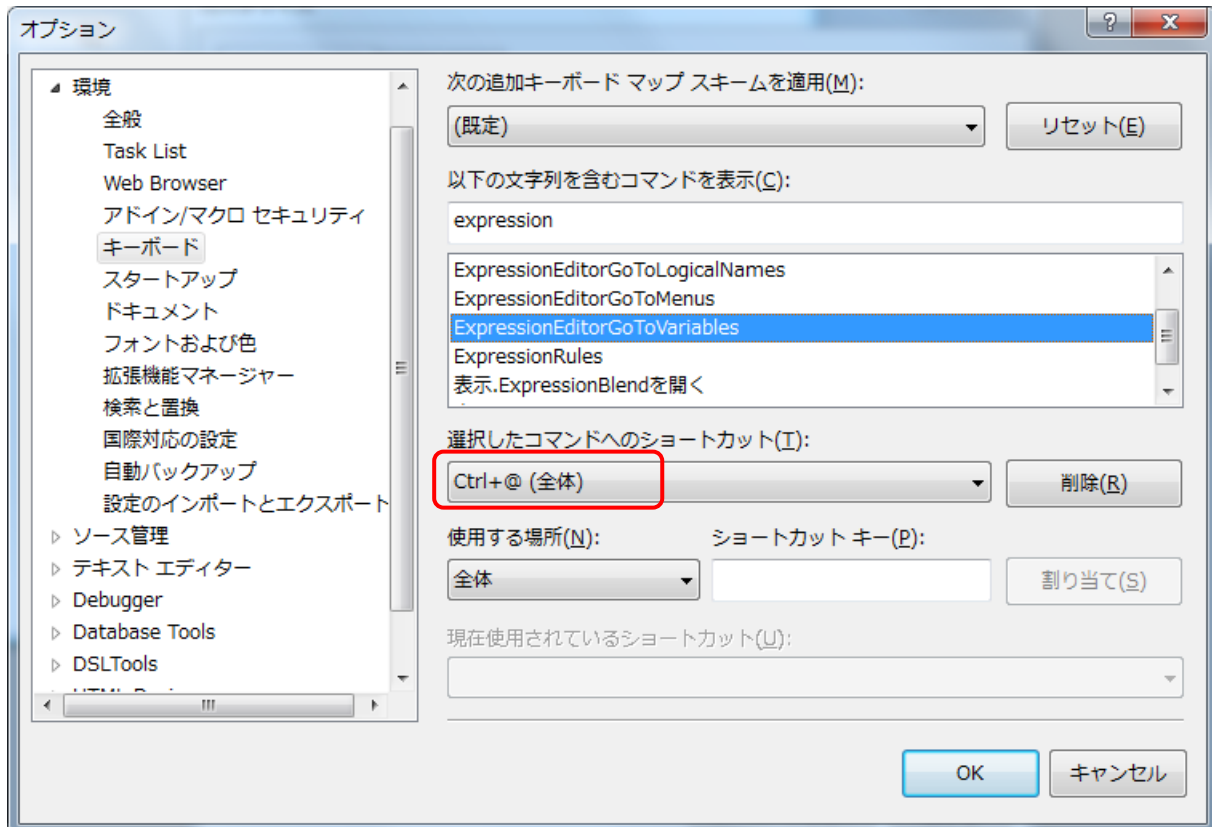
この画面でキー操作を決めることができます。



検索欄に「create」と入力してみます。

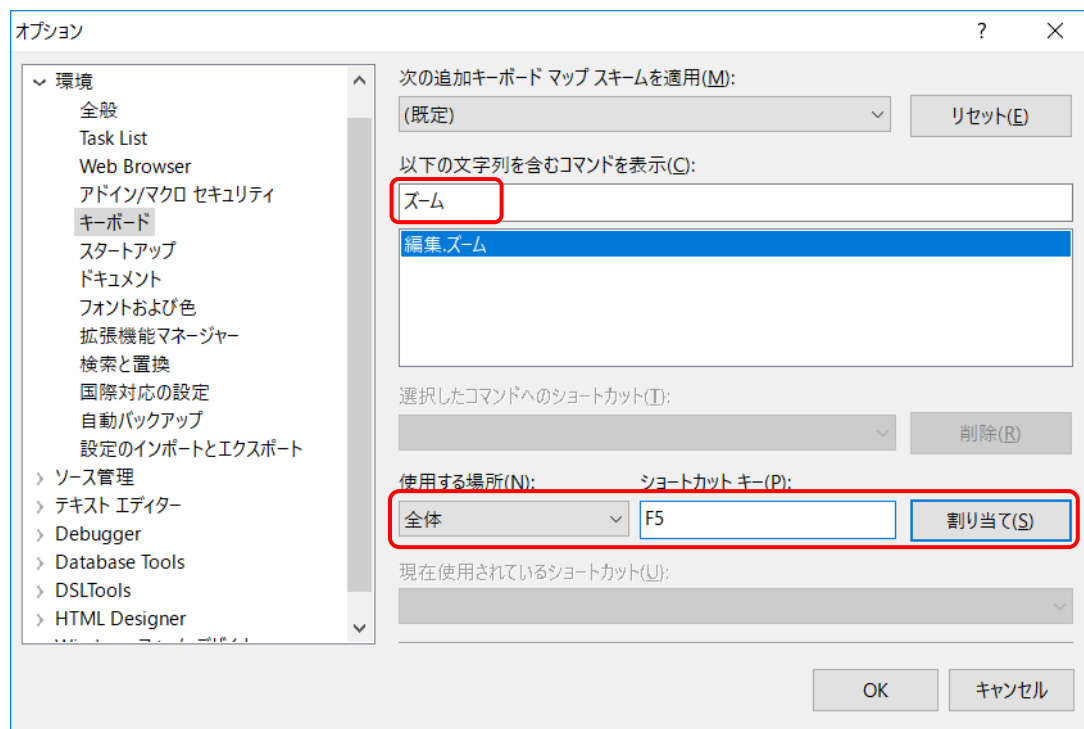


検索欄に「expression」と入力してみます。

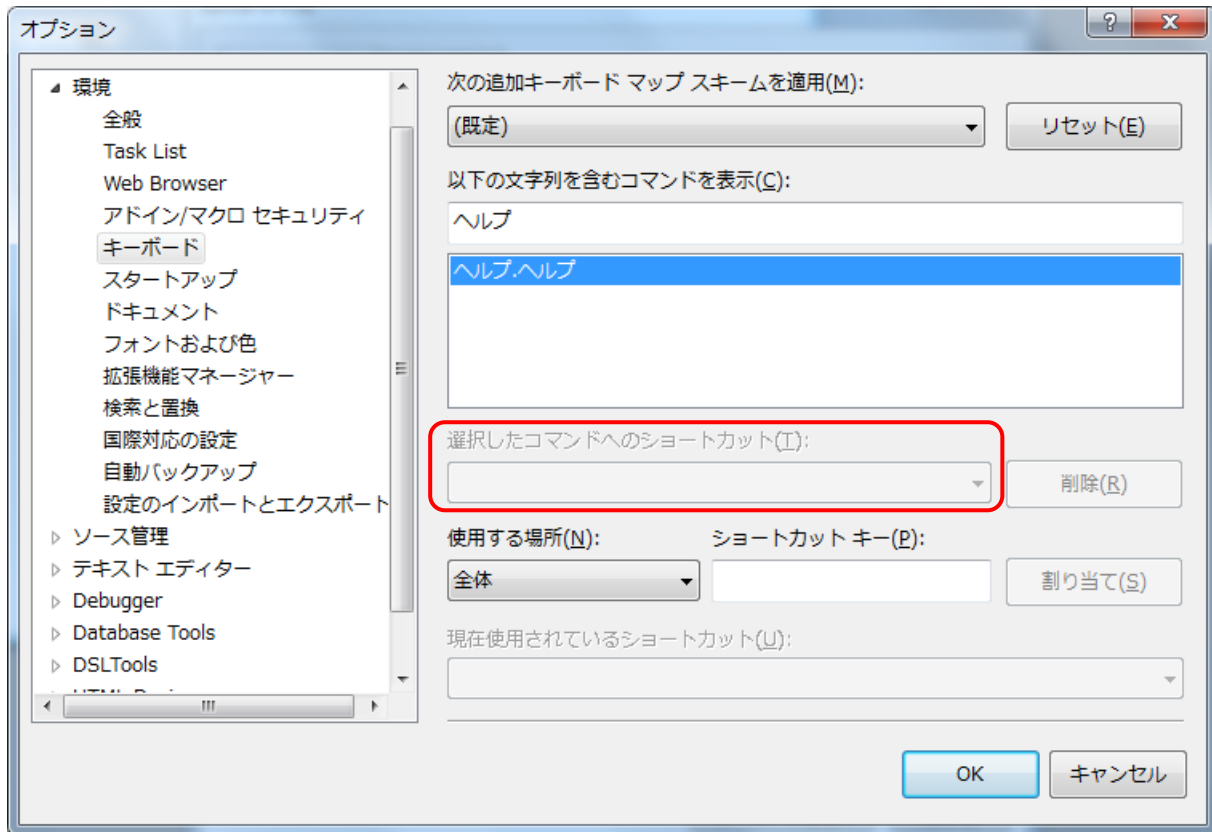


※改善策

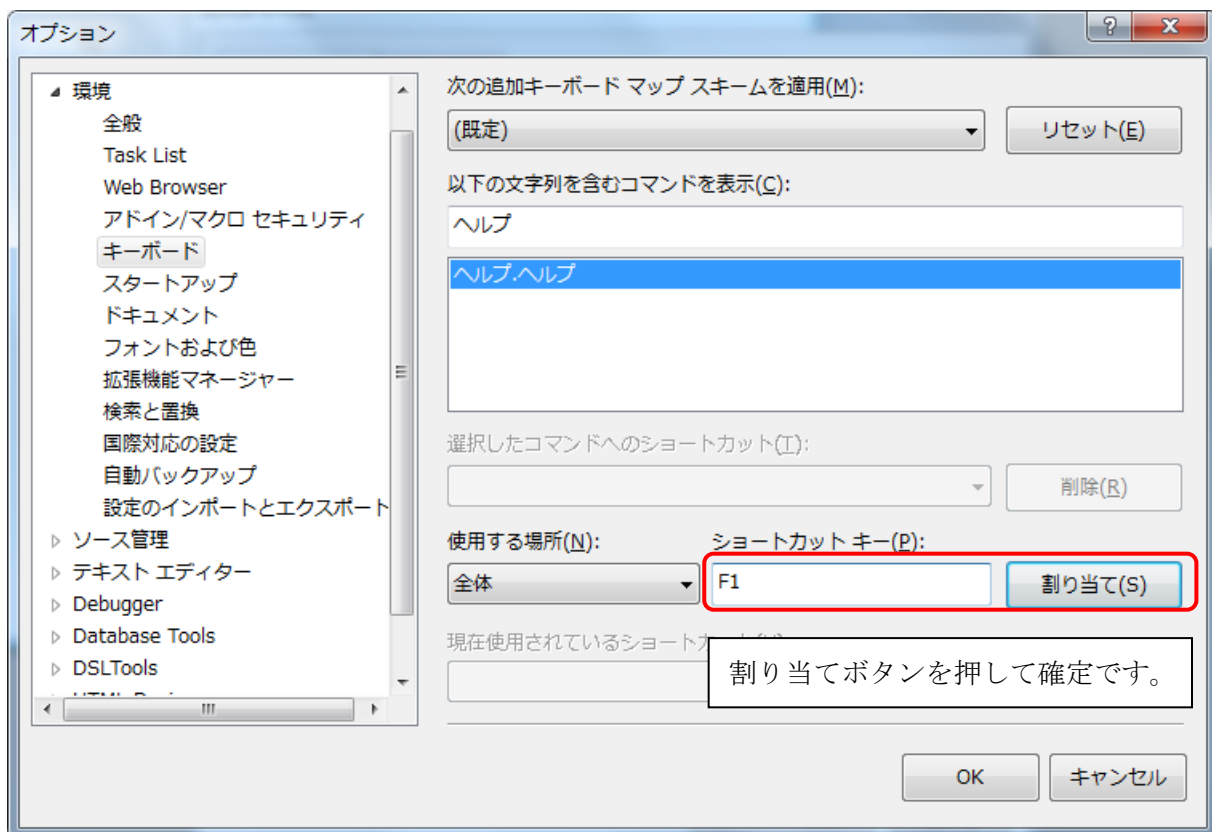
「ExpressionEditorGoToVariables」のショートカットは、そのまま (Ctrl + @) にしておいて、全体に「F5 = ズーム」を割り当てる方法が有効です。



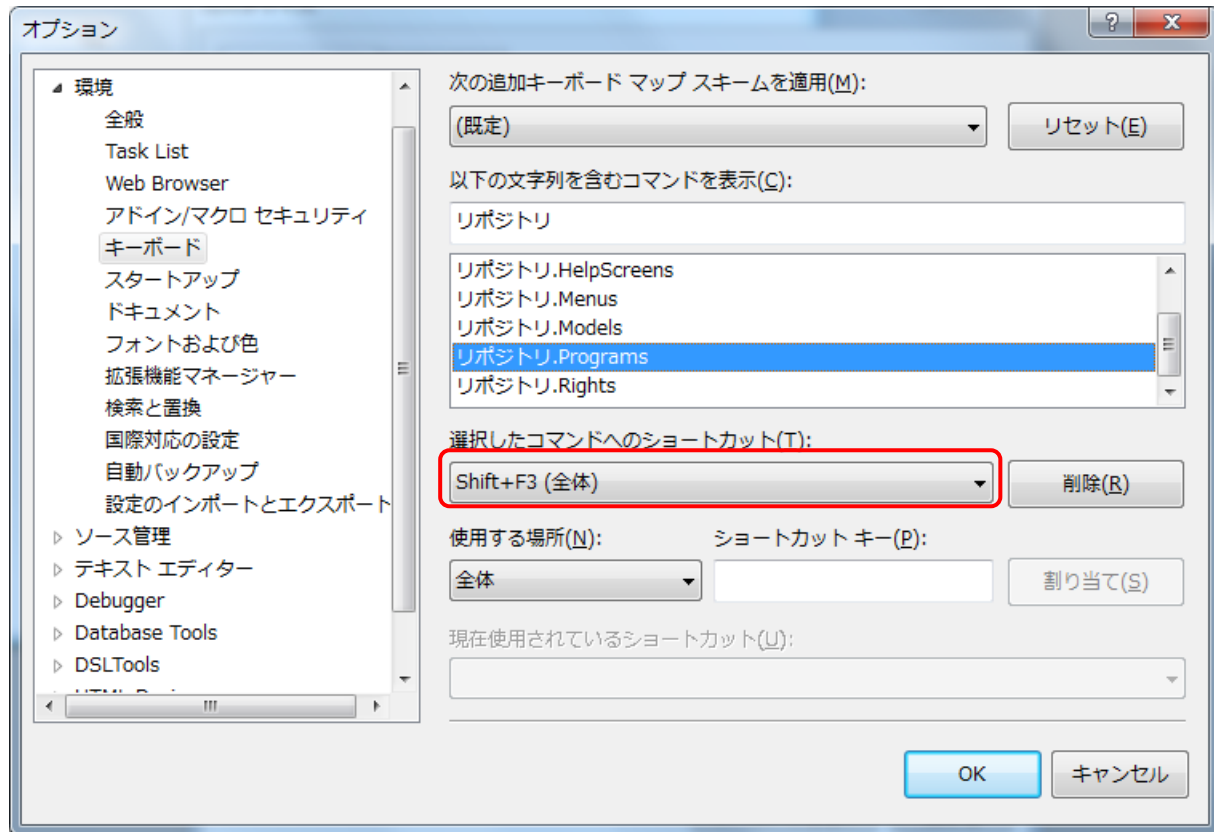
検索欄に「ヘルプ」と入力してみます。



割り当てすることも可能です。(例として F1 をショートカットキーにします。)



検索欄に「リポジトリ」と入力してみます。



uniPaaS と同様にする場合、モデルリポジトリに「Shift + F1」、データリポジトリに「Shift + F2」、プログラムリポジトリに「Shift + F3」というように割り当てします。Studio 画面では割当をしなくてもリポジトリ移動のショートカットは有効です。

6. Magic.ini

Magic.ini は、xpa インストールフォルダに存在するオリジナルからカスタマイズして使うようにします。従来通り、追加指定ファイル (@ファイル名) を使うことも有効です。

<編集例>

```
[MAGIC_ENV]
```

```
;C/S は"R"を設定
```

```
DeploymentMode = R
```

```
;
```

```
;必要に応じて設定 (edp や ecf は基本的に半角英数字)
```

```
DefaultProject = %APP%Projects¥プロジェクトフォルダ¥プロジェクト名.edp
```

```
StartApplication = %APP%Projects¥アプリケーションフォルダ¥アプリケーション名.ecf
```

```
;
```

```
;年 2 桁表示での 1900 年代と 2000 年代の境界設定 (デフォルトは 1930)
```

```
Century = 1950
```

```
;
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
StudioColorDefinitionFile = %ENV%clr_std.jpn
```

```
;uniPaaS 等の旧バージョン用を使用するのも可
```

```
RuntimeApplicationColorDefinitionFile = %ENV%clr_std_94.jpn
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
RuntimeInternalColorDefinitionFile = %ENV%clr_int.jpn
```

```
;
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
StudioFontDefinitionFile = %ENV%fnt_std.jpn
```

```
;uniPaaS 等の旧バージョン用を使用するのも可
```

```
RuntimeApplicationFontDefinitionFile = %ENV%fnt_std_94.jpn
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
RuntimeInternalFontDefinitionFile = %ENV%fnt_int.jpn
```

```
;
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
StudioKeyboardMappingFile = %ENV%act_std.jpn
```

```
;xpa オリジナルをコピーして使用 (カスタマイズ可)
```

```
RuntimeKeyboardMappingFile = %ENV%act_rnt.jpn
```

```
;
```

```
;uniPaaS であれば流用可 (V9Plus 以前は変換が必要)
```

```
UsersPath = %ENV%usr_std.jpn
```

```
;
```

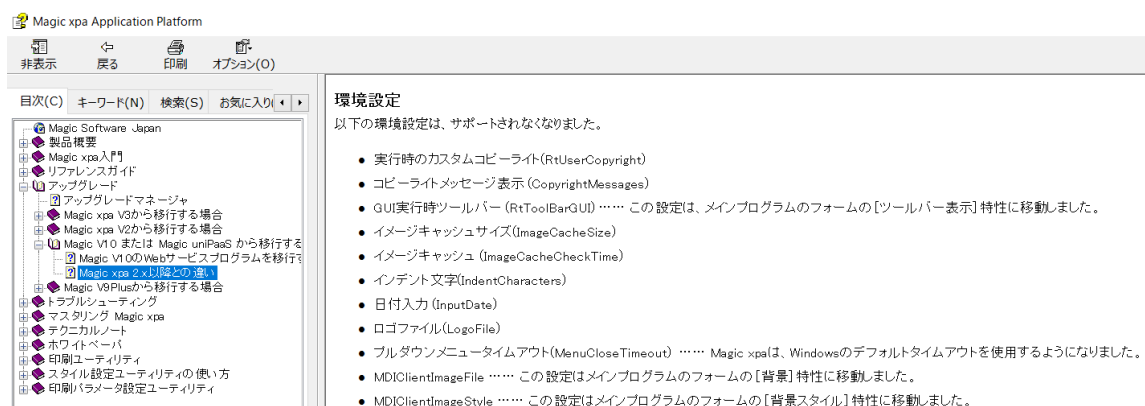
```
CheckerMessageTable = %ENV%chk_std.dat
```

```
;
```

```

;Pervasive のトランザクションは旧バージョンに合わせて設定
ISAMTransaction = N
LockWithinTran = N
;
;C/S であればミドルウェア接続は不要
ActivateRequestsServer = N
;C/S であれば不要だが将来を考えて念のため確認
InternetDispatcherPath = /Magic32Scripts/MGrqispi.dll
;
;イメージボタンを使っていれば旧バージョンに合わせて設定
PBImagesNumber = 4
※旧バージョンで使用していなければ、デフォルト（PBImagesNumber = 6）で使用。
;
;Oracle や SQL Server を使うのであれば設定しておいた良い
CacheSizeArrayFetch = 100
;
;新規プログラム作成時にロジックユニットの基本セットを自動作成する設定
AutoCreateTaskLogicUnits = A
;
;デフォルトフォーカス色の設定
DefaultFocusColor = 105
;
;旧バージョンから存在する Magic.ini の保護フラグ
ReadOnlyIni = Y
;
;イメージキャッシュは指定できない ※3.2 以降では印刷のみで有効
ImageCacheSize = -1
;
uniPaaS では、上記設定（-1）でイメージ（画像）ファイルのキャッシュを「しない」という設定が
可能でした。xpa 4.x では、Magic.ini の設定に残っていますが無効です。

```



※回避策

プログラム修正は必要ですが、.NET コントロールを使う方法があります。
コンポーネントリポジトリで「System.Windows.Forms」を定義しておきます。

コンポーネントリポジトリ			
#	名前	説明	タイプ
1	UserFunctionality	Handles the Range, Locate, Sort and Print Da Magic xpa	
2	System.Windows.Forms	System.Windows.Forms	.NET

.NET タイプの変数を追加して「System.Windows.Forms.PictureBox」を定義します。
(フォームでは、既設のイメージコントロールを削除して、この変数を設定します。)

変数項目特性 .NET: PictureBox

区分(C)	全体(A)
モデル	
汎用	
詳細	
表示	
NET	
オブジェクトタイプ	System.Windows.Forms.PictureBox

必要なところで、変数のプロパティを設定します。

.NET 変数のプロパティは、DNSet 関数を使って設定することも可能です。

タスク 25 - イメージキャッシュ

データビュー ロジック フォーム

1	T=タスク	P=前			
2	項目更新	V=項目	C	ファイルパス	値: 1
3	T=タスク	S=後			
4	R=レポート	P=前			
5	アクション	E=式			
6	R=レポート	S=後			

2 DNSet (PictureBox.ImageLocation , Trim(ファイルパス))

式: イメージキャッシュ

式

```

1 Translate('%DAT%')
2 DNSet (D.ImageLocation , Trim(C) & Trim(Str(A,'5')) & '.JPG')
```

[MAGIC_DATABASES]

;uniPaaS であれば流用可 (V9Plus 以前は手作業での再設定を推奨)

[MAGIC_LOGICAL_NAMES]

;旧バージョンからコピー&ペーストで可 (環境に合わせて変更)

[MAGIC_PRINTERS]

;旧バージョンからコピー&ペーストで可 (環境に合わせて変更)

[MAGIC_DEFAULTS]

;旧バージョンに合わせて設定

DefaultDate = 0000/00/00

[MAGIC_SPECIALS]

;新規オンラインプログラム作成時のトランザクションモードを"物理"にするための設定

SpecialDefaultTransactionMode = P

;

;サイズ調整した場合の[エディット]コントロールの高さを1ピクセル大きくする設定

SpecialEditIncreasedHeight = Y

;

;ファントムタスクが後ろに隠れないようにする設定 (uniPaaS で使用している場合)

SpecialOldZorder = Y

;

;登録モードのキャンセルイベントに影響する設定 (V9Plus , V10.1SP4b , uniPaaS と同様は"N")

SpecialCancelOnCreate = N

;

;式エディタのサジェスチョン機能を無効にする設定

SpecialExpressionAutoComplete = N

;

;スクリーンモードでマウスホイールを無効化する設定

DisableMouseWheel = Y

;

;透過の背景色を無視する設定

SpecialIgnoreBGinModify = Y

;

```
;RIA で通信される xml を暗号化する設定 (C/S では不要)
SpecialClientSecureMessages = Y
;
;RIA のキャッシュファイルを暗号化する設定 (C/S では不要)
SpecialRIAEncryptCache = Y
;
;リッチクライアントタスクの XML のサイズが 3KB 以上の場合に圧縮する設定 (C/S では不要)
SpecialClientCompressMessages = Y
;
;RIA の SDI フォームで実行モードをステータス行に表示する設定 (C/S では不要)
SpecialShowStatusBarPanels = Y
;
;コンテキストがクローズされるとデータベース接続もクローズする設定
SpecialDatabaseConnectionPooling = N
;
```

[dbMAGIC_ENV]

;基本的には uniPaaS に合わせて設定

;

;GUI 印刷ファイル名に「Magic -」を付加させない設定（入出力ファイルの「名前」欄の名称のみ）

NoDocumentName = Y

;

;[データビュー]エディタで項目名と一緒にシンボル名（A , B , . . .）を表示させる設定

ShowItemSymbolSelect = Y

;

; サイズ調整した場合の[エディット]コントロールの幅を 2 ピクセル大きくする設定

EditIncreasedWidth = 2

;

;エディットコントロール内でのサロゲートペア文字の入力を無視する設定

IgnoreSurrogatePair = Y

;

[WINDOWSJ_PRINTER]

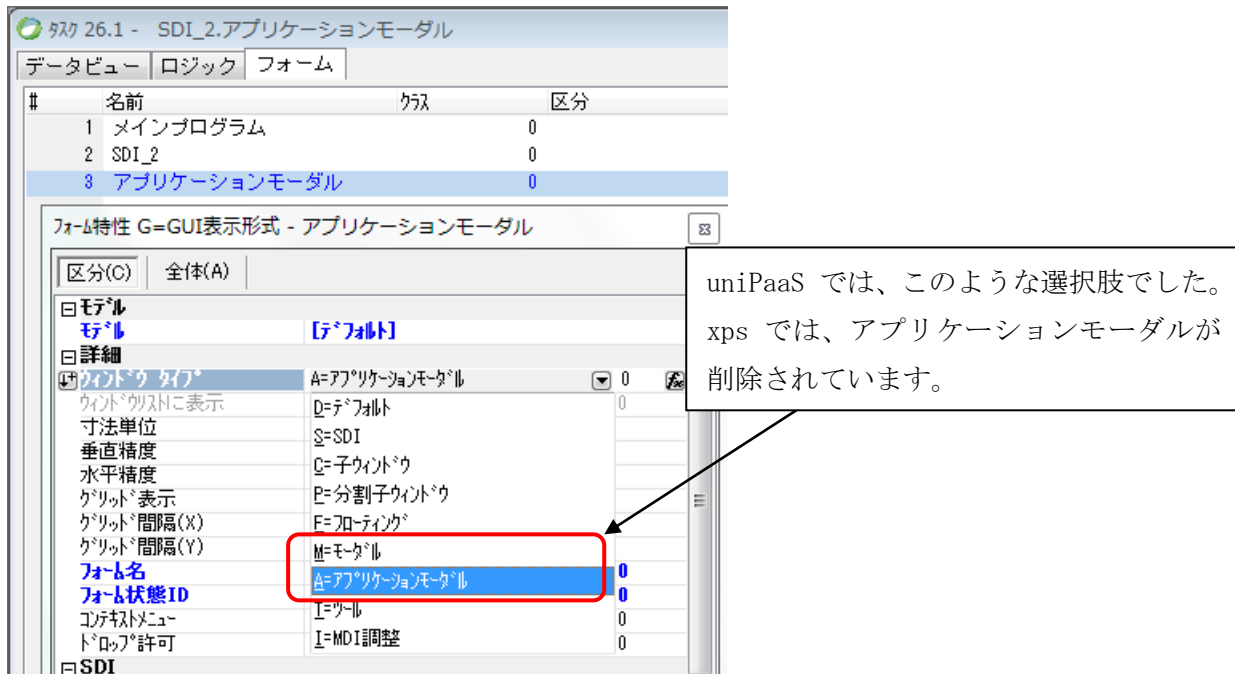
;旧バージョンからコピー&ペーストで可

その他、旧バージョンでの個別設定があれば、環境に合わせて設定します。

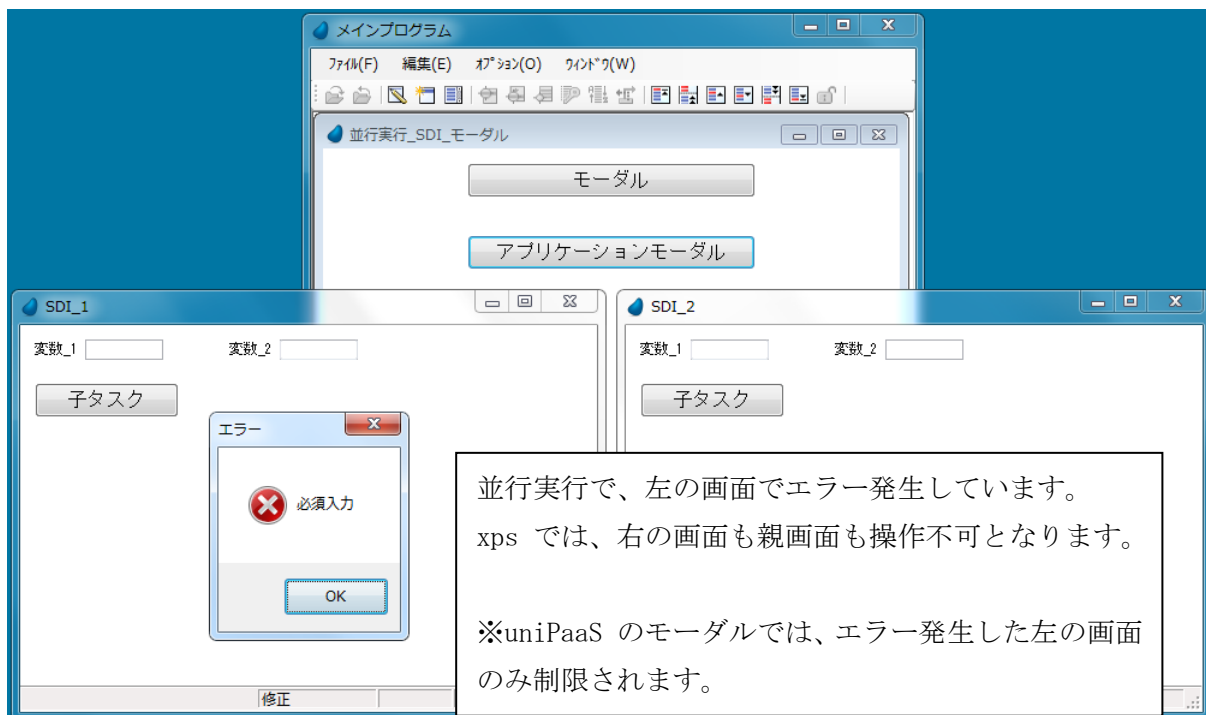
7. その他

・ モーダル

xpa では、並行実行でモーダルを使用すると、uniPaaS のアプリケーションモーダルと同様の動作となります。つまり、並行実行であっても全体的に操作制限を受けます。



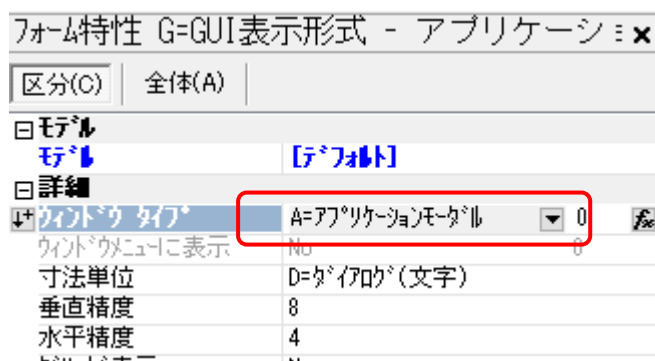
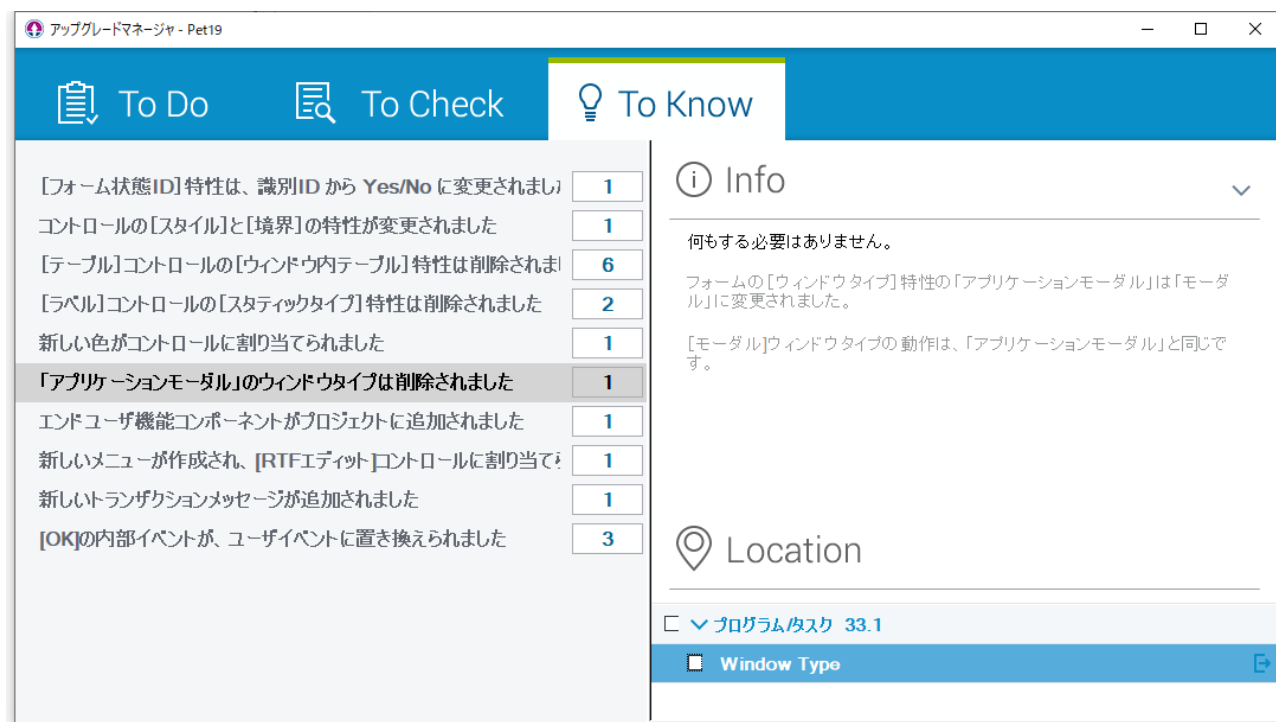
また、xpa では、並行実行状態で、いずれかのウィンドウでエラーコマンドが起動すると全体の操作ができなくなります。



※注意

xpa ではアプリケーションモダルのプロパティは削除されましたが、xpa4.6 のアップグレードマネージャでは設定値がアプリケーションモダルのまま残っています。

【「アプリケーションモダル」のウィンドウタイプは削除されました】(To Know) からプロジェクトを開き、アプリケーションモダルのモダルに変更して下さい。



- ・テーブルコントロールで複数カラムを使った表示
可能ですが、一つのカラムに収まるように調整した方が良いでしょう。

顧客ファイル更新

顧客番号	顧客名	割引率	条件	受注累計額	取引回数
1008	千葉ペットショップ	9.00	30日後支払い	2,902,818	5
	千葉県千葉市高柳	1	2	3	4
1234	ペットセンター神田	10.00	現金	1,340,442	4
	東京都千代田区神田	1	2	3	

- ・テーブルタイトルの複数段表示
カラム特性のカラムタイトル欄に移動し、右のボタンを押します。

プロパティ

顧客名 カラム コントロール

検索

汎用

モデル 25

モデル名 テーブル列

ナビゲーション

位置 True

幅 21.000

コントロールレイヤ 2

詳細

カラムタイトル 顧客名

ソート可 True

広域ウィンドウでEnterを使って改行し、2段目を入力します。

プロパティ

顧客名 カラム コントロール

検索

汎用

モデル 25

モデル名 テーブル列

ナビゲーション

位置 True

幅 21.000

コントロールレイヤ 2

詳細

カラムタイトル 顧客名

顧客名

住所

「Ctrl + Enter」で確定します。

顧客ファイル更新						
顧客番号	顧客名 住所	割引率	条件	受注累計額	取引回数	
5Z	20	3.2Z	20	N8CZ	N5CZ	
	40					

・幅を埋める

xpa に移行するとテーブルコントロールの右端に若干の隙間が入ることがあります。

商品ファイル更新						
商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1002	アートル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	
1004	カリヤ	B	30,300	40	5	

気になる場合は、テーブルコントロールの特性で埋める設定をします。

プロパティ

テーブル コントロール

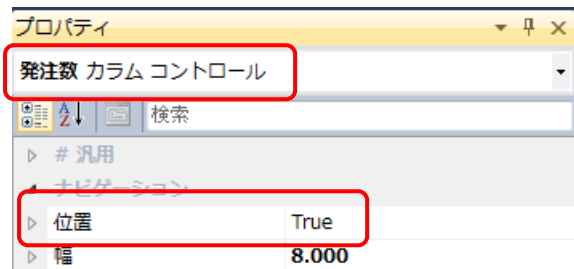
表示

色	1
テーブル色の指定	カラム
交互表示色	0
タイトル色	0
区切り線の色	0
ツールチップ	0
可視	0
境界	True
スクロールバー	True
区切り	True
ハイライト行のスタイル	F=フレーム
ハイライト行の色	0
タイトル高さ	1.500
行高さ	1.500
下辺位置	R=最下行内
カラム数	7
カラムの区切線	True
サイズ変更可	True
カラムの並び替え可	True
幅を埋める	True
マルチマーキング	True

モデルリポジトリで設定することも可能です。

商品ファイル更新						
商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1002	フードル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	
1004	カリヤ	B	30,300	40	5	

余白は、カラム特性の位置が「True」になっているものに振り分けされます。



商品ファイル更新						
商品番号	商品名	商品タイプ	単価	在庫数	受注数	発注数
1002	フードル	D	101,000	10	2	100
1003	フォックス テリア	D	40,400	3	2	
1004	カリヤ	B	30,300	40	5	

- DbDel は要注意

Oracle や SQL Server のテーブルをワークとして使う場合、DbDel でテーブルを削除していると、uniPaaS では問題なく実行できていても xpa でエラーになることがあります。

例) oracle gateway:trying to create a table while in a transaction

トランザクション中にテーブル作成はできない、というエラーです。

プログラムチェック (F8) 時ではなく、実行時に指摘されるものです。

xpa ではトランザクションやロックの設定も厳密に見ておく必要があります。

トランザクション開始が不要なところでは「なし」にしておきます。

Pervasive (Actian PSQL) も DbDel は要注意です。

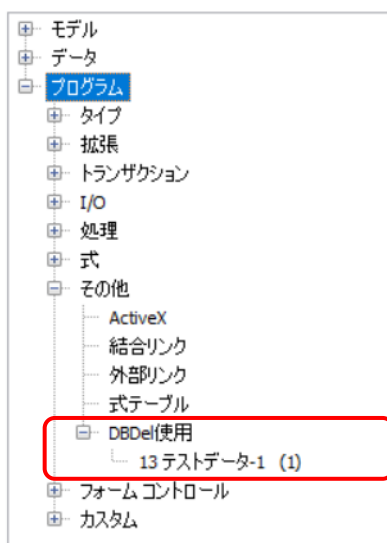
クライアント OS 上では問題なくとも、サーバ OS では気付きにくいトラブルの可能性があります。

※削除したはずのワークファイルが残っているように思える現象です。(SMB 2 によるものです。)

DbDel を使っているプログラムは重点的にテストされることを推奨します。

※Optimizer で DbDel を使っているプログラムを検出することができます。

リスト



・データ出力ウィザード

uniPaaS や、xpa では、データ出力ウィザードを使って、エンドユーザがデータを CSV 等に出力することが可能です。機能を確認しておきましょう。

※この機能は「UserFunctionality」で提供されています。

以下、作成例です。

1) 単純な照会画面を作成します。

一般的には、データ検索と組み合わせることが多いと考えられます。

受注一覧						
受注番号	受注日	顧客番号	顧客名	住所		受注合計額
112	86/01/26	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋	4-1-12	654,500
113	86/01/26	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台	2-5-6	700,225
114	86/02/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1234-1	618,618
115	86/02/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1-2-3	259,560

※リンクも有効です。

タスク 27 - 受注一覧						
データビュー ログブック フォーム						
1	M=メインメニュー	4	受注ファイル		インデックス:	1
2	C=カラム	1	A.顧客番号	[2]	N=数値	52
3	D=照会リンク	2	顧客ファイル		インデックス:	1
4	C=カラム	1	B.顧客番号	[2]	N=数値	52
5	C=カラム	2	C.顧客名	[6]	A=文字	20
6	C=カラム	3	D.住所	[16]	A=文字	40
7	E=リンク終了					
8	C=カラム	2	E.受注番号	[3]	N=数値	52
9	C=カラム	5	F.受注日	[7]	D=日付	##/##/##
10	C=カラム	9	G.受注合計額	[12]	N=数値	N8C2

2) タスク特性のデータ出力を「Yes」にします。

タスク特性: 27 - 受注一覧

汎用(G) 動作(B) インタフェース(I) データ(D) 操作(O) 拡張(A)

実行モード

操作(O): Yes
照会: Yes

修正: Yes
位置付: Yes

登録: Yes
範囲: Yes

削除: Yes

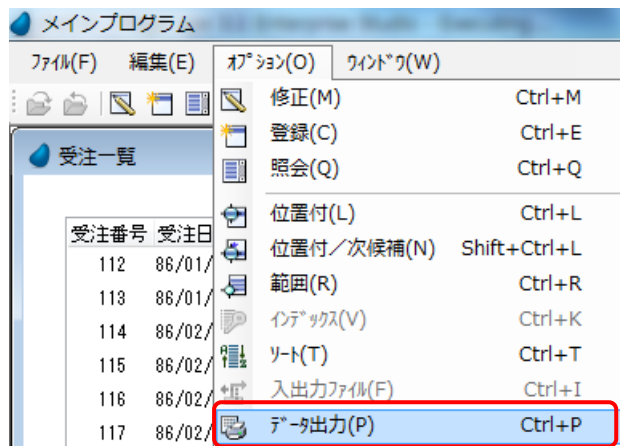
エンドユーザ機能

インデックス変更: Yes
インデックス最適化: Yes

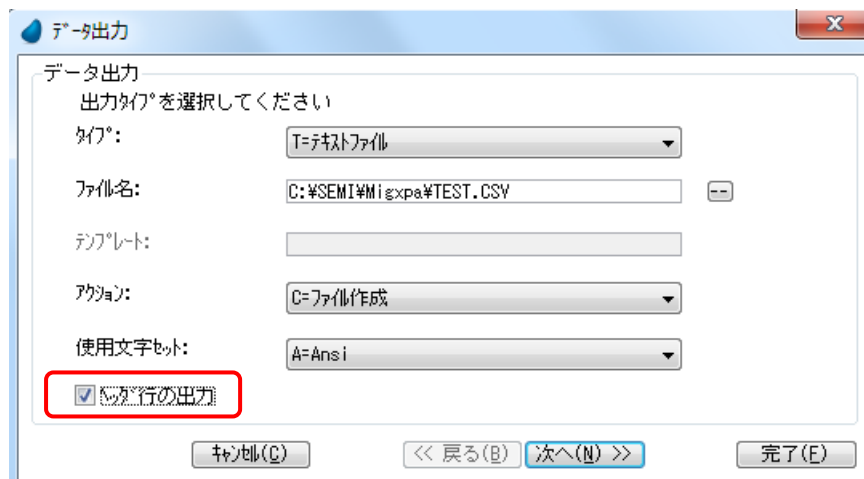
ソート: Yes
照会モード位置付: Yes

入出力ファイル: Yes
データ出力: Yes

3) 実行して「データ出力ウィザード」を起動します。



4) ウィザードに従って、必要な設定をします。



データ出力

区切り文字

区切り文字を指定してください

区切り	エンクオート文字
<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> なし
<input checked="" type="radio"/> カンマ	<input type="radio"/> シリールエンコーディング
<input type="radio"/> コロン	<input checked="" type="radio"/> タブエンコーディング
<input type="radio"/> タブ	<input type="radio"/> その他 <input type="text"/>
<input type="radio"/> その他 <input type="text"/>	

5) 出力結果を確認します。

	A	B	C	D	E	F
1	受注番号	受注日	顧客番号	顧客名	住所	受注合計額
2	112	1986/1/26	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋	4 - 1 - 1 2
3	113	1986/1/26	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台	2 - 5 - 6
4	114	1986/2/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1 2 3 4 - 1
5	115	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1 - 2 - 3
6	116	1986/2/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1 2 3 4 - 1
7	117	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1 - 2 - 3
8	118	1986/2/23	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台	2 - 5 - 6
9	119	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1 - 2 - 3
10	120	1986/5/21	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1 2 3 4 - 1
11	121	1986/6/3	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋	4 - 1 - 1 2
12	122	1987/7/21	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1 2 3 4 - 1
13	123	1987/7/28	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1 - 2 - 3
14	124	1987/9/8	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台	2 - 5 - 6
15	125	1989/10/4	9999	浪速ペット	大阪府大阪市難波南	1 - 1 - 1 0
16	132	2004/1/20	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1 2 3 4 - 1
17	135	2004/1/20	10001			
18	137	2004/4/1	9876			
19	138	2004/4/1	9999	浪速ペット	大阪府大阪市難波南	1 - 1 - 1 0
20	139	2004/4/1	10000			

・データ出力ウィザード拡張 (Excel 出力)

xpa 3.2 の新機能です。内部イベントの「データ出力」を使って、Excel に直接出力します。

※この機能は「UserFunctionality」で提供されています。

以下、作成例です。

1) 単純な照会画面を作成します。

基本部分は先ほどの例と同様です。

受注一覧							
受注番号	受注日	顧客番号	顧客名	住所		受注合計額	
112	86/01/26	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋	4-1-12	654,500	
113	86/01/26	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台	2-5-6	700,225	
114	86/02/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳	1234-1	618,618	
115	86/02/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田	1-2-3	259,560	

※リンクも有効です。

2) タスク特性のデータ出力を「Yes」にします。

タスク特性: 43 - 受注一覧

×

汎用(G)

動作(B)

インタフェース(L)

データ(D)

アクション(A)

拡張(E)

実行モード

アクション :

Yes

照会 :

Yes

修正 :

Yes

位置付 :

Yes

登録 :

Yes

範囲 :

Yes

削除 :

Yes

エンドユーザ機能

インデックス変更 :

Yes

インデックス最適化 :

Yes

ソート :

Yes

照会モード位置付 :

Yes

入出力ファイル :

Yes

データ出力 :

Yes

3) フォームにボタンを追加します。

Excel出力 ボタン コントロール	
# 汎用	
モデル	33
モデル名	実行ボタン
# ナビゲーション	
位置	{0,0,0,0}
> X	95.000
> Y	4.500
> 幅	16.000
> 高さ	2.000
コントロールレイヤ	0
# パーキング	
> TAB順序	7
> パーキング可	True
> TABで移動	True
TAB移動方向	B=両方向
# 詳細	
> データ	
項目	???
コントロール名	Excel出力
> 書式	Excel出力
型	文字
ボタンスタイル	P=プッシュボタン
デフォルトイメージファイル名	
イベントタイプ	U=ユーザ
イベント	G_exec_N

4) ボタンを押したときのロジックを作成します。

タスク 43 - 受注一覧

データビュー ロジック フォーム

#	名前	コマンド	パラメータ
1	T=タスク	P=前	
2	T=タスク	S=後	
3	R=レポート	P=前	
4	R=レポート	S=後	
5	E=イベント	G_exec_N	
6	イベント実行	データ出力(P)	[1 パラメータ]

イベント

イベントのタイプと実行するイベントを指定してください。

イベントタイプ: I=内部

イベント: データ出力(P)

イベント実行コマンドのパラメータには「1」を設定します。

パラメータ: データ出力(P)

#	項目	式	説明	スキップ
1	???	1	1	<input type="checkbox"/>

式: 受注一覧

1 式 1

5) 実行してボタンを押した結果を確認します。

The screenshot shows a software window titled '受注一覧' (Order List) with a table of subscription data. A button labeled 'Excel出力' (Excel Output) is highlighted with a red box. An arrow points from this button to a Microsoft Excel spreadsheet titled 'Book1 - Microsoft Excel'. The spreadsheet contains the same data as the table in the software window.

受注番号	受注日	顧客番号	顧客名	住所	受注合計額
112	86/01/26	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋 4-1-1 2	654,500
113	86/01/26	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台 2-5-6	700,225
114	86/02/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	618,618
115	86/02/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	259,560

	A	B	C	D	E	F	G
	受注番号	受注日	顧客番号	顧客名	住所	受注合計額	
2	112	1986/1/26	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋 4-1-1 2	654500	
3	113	1986/1/26	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台 2-5-6	700225	
4	114	1986/2/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	618618	
5	115	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	259560	
6	116	1986/2/23	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	409600	
7	117	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	46350	
8	118	1986/2/23	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台 2-5-6	282581	
9	119	1986/2/23	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	307764	
10	120	1986/5/21	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	937300	
11	121	1986/6/3	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋 4-1-1 2	525300	
12	122	1987/7/21	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	937300	
13	123	1987/7/28	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	726768	
14	124	1987/9/8	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台 2-5-6	95790	
15	125	1989/10/4	9999	浪速ペット	大阪府大阪市難波南 1-1-1 0	94245	
16	132	2004/1/20	1008	千葉ペットショップ	千葉県千葉市高柳 1 2 3 4-1	173710	
17	135	2004/1/20	1234	ペットセンター神田	東京都千代田区神田 1-2-3	106050	
18	137	2004/4/1	5678	サンシャインペット	東京都豊島区池袋 4-1-1 2	477225	
19	138	2004/4/1	9999	浪速ペット	大阪府大阪市難波南 1-1-1 0	242589	
20	139	2004/4/1	9012	動物ランド桜台	東京都練馬区桜台 2-5-6	15908	

- RM コンバータ

RM 互換をイベントドリブン形式に変換するツール「RM コンバータ」は、次のところからダウンロードできます。

<http://www.magicsoftware.co.jp/files/beta/RMConverter/RMConverter.htm>

今のところ、uniPaaS の段階で変換しておいた方が無難のようです。

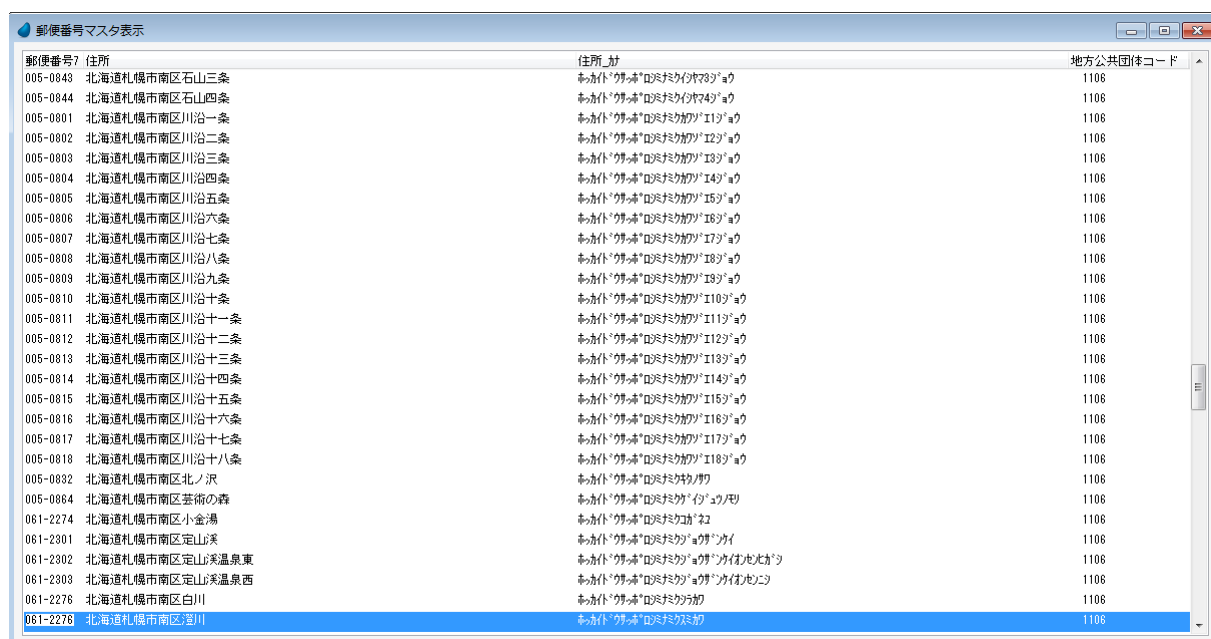
RM コンバータは、ファントムタスクをサブフォーム化しません。これについては、手作業が必要となります。RM 互換やファントムタスクでは、機能的な制限を受けることがあります。変換のための工数は必要ですが、早めに変換することを推奨します。

RM 互換は、次期メジャーバージョン（xpa5.x では非サポートの予定です）

・実行時の速度

表示速度は、uniPaaS の方が高速です。

例えば、単純なラインモード画面で、マウスのスクロール機能を連続実行（10 回等）すると、xpa では描画が追従できず、マウス操作を止めた後も暫く画面スクロールが続くことがあります。



郵便番号? 住所	住所_カナ	地方公共団体コード
005-0843 北海道札幌市南区石山三条	北海道札幌市南区石山三条	1106
005-0844 北海道札幌市南区石山四条	北海道札幌市南区石山四条	1106
005-0801 北海道札幌市南区川治一条	北海道札幌市南区川治一条	1106
005-0802 北海道札幌市南区川治二条	北海道札幌市南区川治二条	1106
005-0803 北海道札幌市南区川治三条	北海道札幌市南区川治三条	1106
005-0804 北海道札幌市南区川治四条	北海道札幌市南区川治四条	1106
005-0805 北海道札幌市南区川治五条	北海道札幌市南区川治五条	1106
005-0806 北海道札幌市南区川治六条	北海道札幌市南区川治六条	1106
005-0807 北海道札幌市南区川治七条	北海道札幌市南区川治七条	1106
005-0808 北海道札幌市南区川治八条	北海道札幌市南区川治八条	1106
005-0809 北海道札幌市南区川治九条	北海道札幌市南区川治九条	1106
005-0810 北海道札幌市南区川治十条	北海道札幌市南区川治十条	1106
005-0811 北海道札幌市南区川治十一条	北海道札幌市南区川治十一条	1106
005-0812 北海道札幌市南区川治十二条	北海道札幌市南区川治十二条	1106
005-0813 北海道札幌市南区川治十三条	北海道札幌市南区川治十三条	1106
005-0814 北海道札幌市南区川治十四条	北海道札幌市南区川治十四条	1106
005-0815 北海道札幌市南区川治十五条	北海道札幌市南区川治十五条	1106
005-0816 北海道札幌市南区川治十六条	北海道札幌市南区川治十六条	1106
005-0817 北海道札幌市南区川治十七条	北海道札幌市南区川治十七条	1106
005-0818 北海道札幌市南区川治十八条	北海道札幌市南区川治十八条	1106
005-0832 北海道札幌市南区北ノ沢	北海道札幌市南区北ノ沢	1106
005-0864 北海道札幌市南区芸術の森	北海道札幌市南区芸術の森	1106
061-2274 北海道札幌市南区小金湯	北海道札幌市南区小金湯	1106
061-2301 北海道札幌市南区定山渓	北海道札幌市南区定山渓	1106
061-2302 北海道札幌市南区定山渓温泉東	北海道札幌市南区定山渓温泉東	1106
061-2303 北海道札幌市南区定山渓温泉西	北海道札幌市南区定山渓温泉西	1106
061-2276 北海道札幌市南区白川	北海道札幌市南区白川	1106
061-2278 北海道札幌市南区蓮川	北海道札幌市南区蓮川	1106

※マウスのスクロール機能ではなく、PgDn や PgUp でのページ切り替えが高速で有効です。

開発画面も同様に、マウスの連続スクロールは控えて、PgDn や PgUp を使ったり、「Ctrl + J」によるジャンプ機能や「Ctrl + L」 & 「Ctrl + N」による検索機能の併用が良さそうです。

単純なバッチの速度は、uniPaaS と、xpa とでは大差ありません。

多くのタスクをコールする複雑なバッチは、uniPaaS の方が高速です。

※電源プランは「高パフォーマンス」で使用されることを推奨します。

（コントロールパネル → 電源オプション）

- ・ バッチタスクの応答なし

uniPaaS では、イベント可を「No」にしたバッチタスク実行中に、マウスでフォーム移動しようすると「応答なし」と表示されることがありました。

xpa では、単純移行しただけでも改善されます。

タスク特性: 39.1 - 応答なしになるバッチ処理_1

汎用(B) 動作(B) インタフェース(I) データ(D) オプション(O) 拡張(A)

汎用

循環入力 : Yes

更新確認 : No

キャンセル確認 : No

強制ログアウト後 : No

ログアウト削除 : No

ログアウト再表示 : No

バッチタスク

イベント可 : No

ログアウトイベント間隔 : 0

イベント当たりログアウト件数 : 0

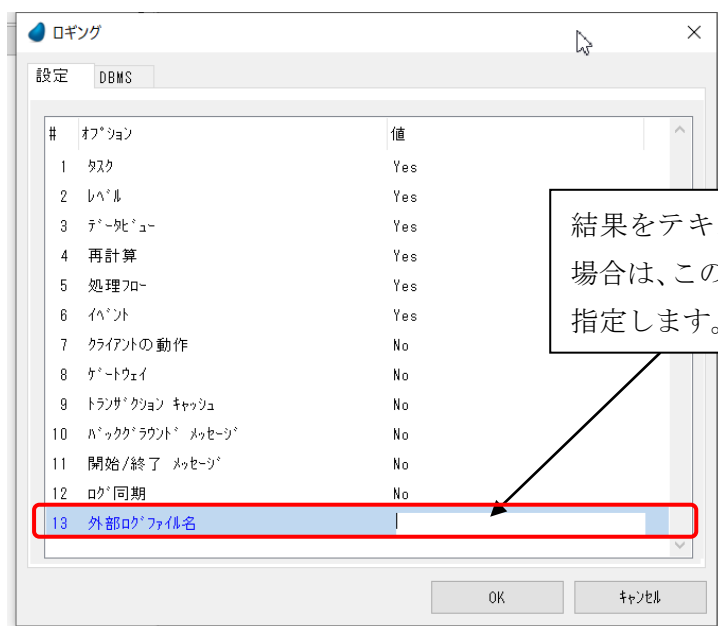
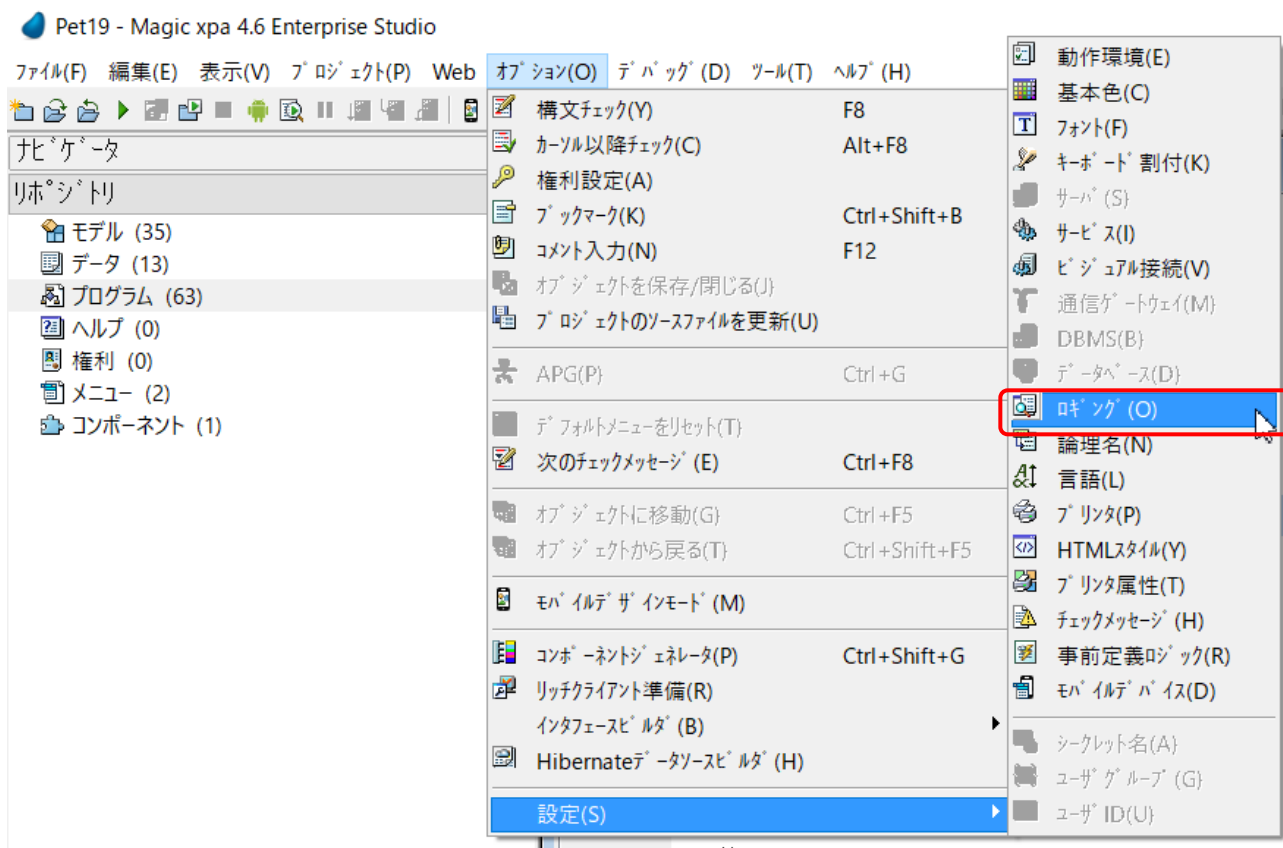
OK キャンセル

• デバッガ

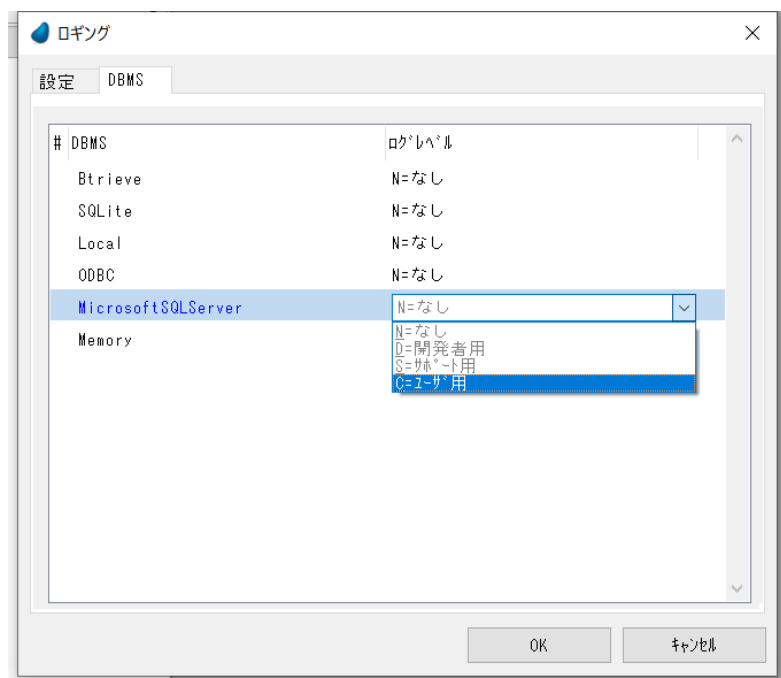
uniPaaS や、xpa には、専用のデバッガが装備されています。

使用時の手順は、次のようになります。

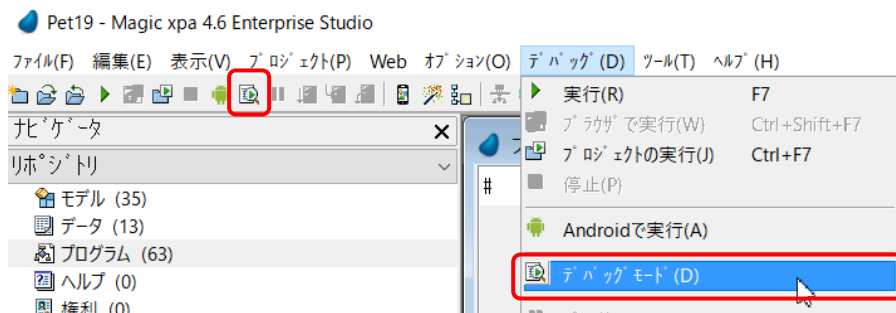
ロギングを設定します。



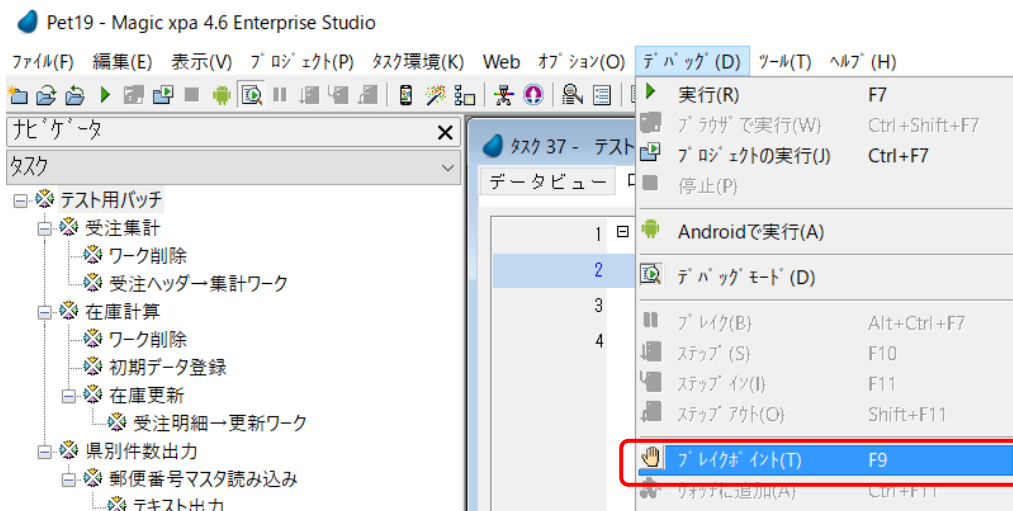
ゲートウェイの動作（発行した SQL 等）を確認したいときは、ゲートウェイ欄を「Yes」にして、DBMS タブも設定します。



デバッグモードを有効にします。



一時停止したいところにブレイクポイントをセットします。



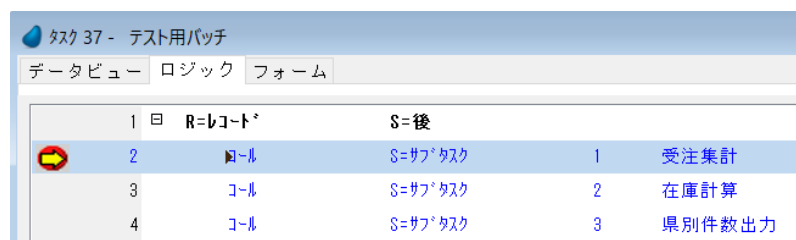
ブレイクポイントをセットすると、コマンド行に赤い丸印が付きます。



	1	日	R=レポート	S=後	
	2	コール	S=サブタスク	1	受注集計
	3	コール	S=サブタスク	2	在庫計算
	4	コール	S=サブタスク	3	県別件数出力

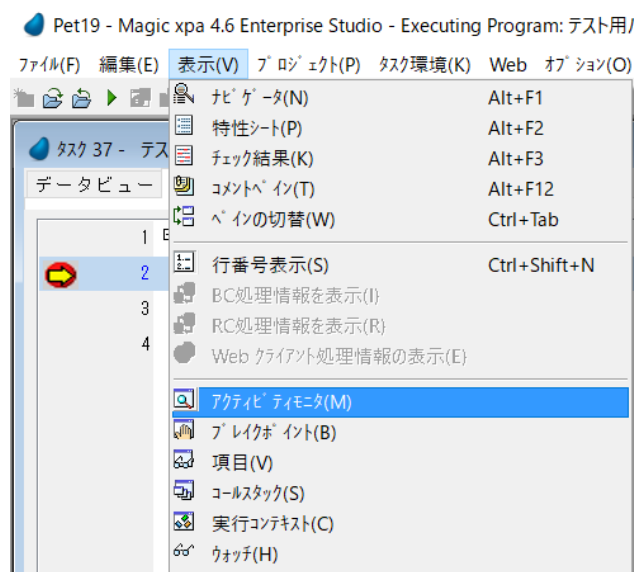
実行 (F7) します。

ブレイクポイントをセットしたコマンド行の実行直前で停止します。

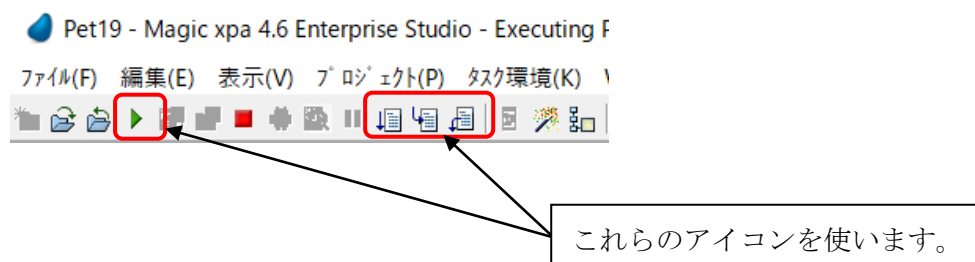


	1	日	R=レポート	S=後	
	2	コール	S=サブタスク	1	受注集計
	3	コール	S=サブタスク	2	在庫計算
	4	コール	S=サブタスク	3	県別件数出力

アクティビティモニタ等、必要な画面を表示します。



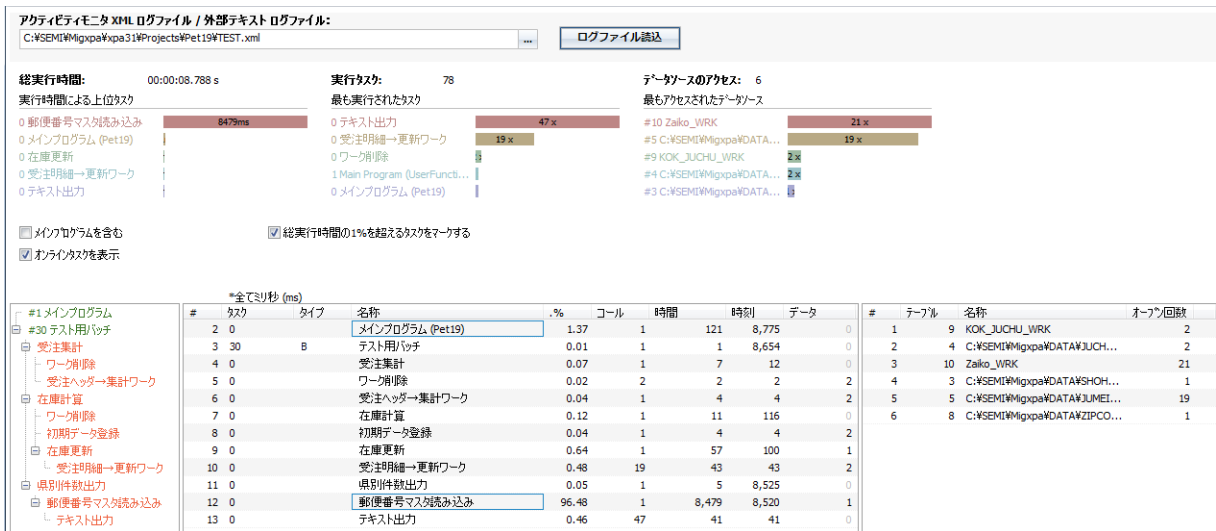
ブレイクポイントからステップ実行させることが可能です。



項目の現在値を参照することも可能です。

項目			
名前	型	データソース	値
在庫更新			
受注番号	N=数値	受注ファイル	112
受注日	D=日付	受注ファイル	86/01/26
受注明細→更新ワーク			
受注番号	N=数値	受注明細ファイル	112
明細番号	N=数値	受注明細ファイル	1
商品番号	N=数値	受注明細ファイル	1006
数量	N=数値	受注明細ファイル	4
商品番号	N=数値	商品在庫更新ワーク	1006
現在在庫数	N=数値	商品在庫更新ワーク	4
受注数	N=数値	商品在庫更新ワーク	
理論在庫数	N=数値	商品在庫更新ワーク	4

アクティビティモニタのログは、Magic Optimizer でプロファイラとして分析してくれます。



※ログ書き込みのため、通常より時間が掛かります。

- ・古いバージョンからの移行

uniPaaS より古いバージョンから移行する場合、途中バージョンで修正を入れるよりも、xpa に移行した後、まとめて修正することが効率が良いと思われます。

・・・ → V8 → V9Plus → uniPaaS V1Plus → xpa4.x

※このとき、uniPaaS V1Plus では修正しない方が良い。

※RMConverter は、uniPaaS V1Plus のタイミングで使用して、その後、xpa に移行して修正。

- ・xpa での納品

xpa に移行した後、プログラム変更が必要になった場合は xpa で開発します。

uniPaaS で開発して、都度 xpa に移行という手順は使いません。

・FAQ とテクニカル情報

マジックソフトウェア・ジャパンの Web サイトには、各製品（バージョン）について、FAQ を記載しています。情報確認の際には、ご活用ください。

The screenshot shows the Magic xpa FAQ page. The header includes the DEVNET Japan logo and navigation links: ホーム | お問い合わせ | サイトマップ. Below the header is a menu bar with links: Magic xpa, Magic xpi, サポートサービス, ダウンロード, ユーザー登録, and スキルアップセンター. The breadcrumb trail reads: ホーム > Magic xpa > Magic xpa 製品情報 > Magic xpa 4 FAQ. A search bar is located on the right. The left sidebar lists various product information links for Magic xpa. The main content area is titled 'Magic xpa Application Platform 4 FAQ' and contains a 'Products - FAQ' section with a list of links to various FAQs.

Magic xpa

- Magic xpa 製品情報
- Magic xpa 4 製品構成
- Magic xpa 4 動作環境
- Magic xpa 4 FAQ
- Magic xpa 4 価格表／購入情報
- Magic xpa 3.x製品情報
- Magic xpa 2.x製品情報
- V1Plus製品情報
- 旧 Magicバージョン

Magic xpa Application Platform 4 FAQ

Products - FAQ

- 動作環境
- Magicライセンス関連
- インストール関連
- DBMS関連
- Magicの製品仕様
- ReportsMagic - RMViewer C/S バンドル版
- Magicリッチクライアント(RIA)-共通
- Magicリッチクライアント(RIA)-Windows版
- Magicリッチクライアント(RIA)-iOS版
- Magicリッチクライアント(RIA)-Android版
- WebClient
- インメモリ・データ グリッド(IMG)
- ソフトウェア・メンテナンス
- IBM i(System i, iSeries, AS/400)

また、テクニカル情報のページもあります。

The screenshot shows the Magic xpa Technical Information Login page. The header includes the DEVNET Japan logo and a gear icon. The breadcrumb trail reads: サポートサービス > テクニカル情報. The left sidebar lists various technical information links for Magic xpa. The main content area is titled 'テクニカル情報 ログイン' and contains a login form with fields for ログインID and ログインパスワード, and buttons for ログイン and リセット. Below the login form is a '新着情報' (New Information) section with two entries: Magic xpa 4.6 and Magic xpa 3.0, each with a brief description and a date.

サポートサービス

- テクニカル情報
- Magic xpa 4.x
- Magic xpa 3.x
- Magic xpa 2.x
- Magic uniPaaS V1 Plus
- Magic uniPaaS V1
- Magic eDeveloper V10
- Magic eBusiness Platform V9 Plus
- Magic eBusiness Platform V9

テクニカル情報 ログイン

以下のログインIDおよびパスワードを設定し、ログインボタンを押してください。

ログインID:

ログインパスワード:

ログイン リセット

新着情報

Magic xpa 4.6
(2003592) Magic SQL Whereを使用したプログラムを実行すると、異常終了する問題 (20年04月20日更新)
(2003786) スクリーンモードで行削除を実行した場合、レコード後処理のカレントレコードの値が次レコードになる問題 (20年05月15日更新)

Magic xpa 3.0
(2003168) 新元号対応について (19年04月03日更新)